

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

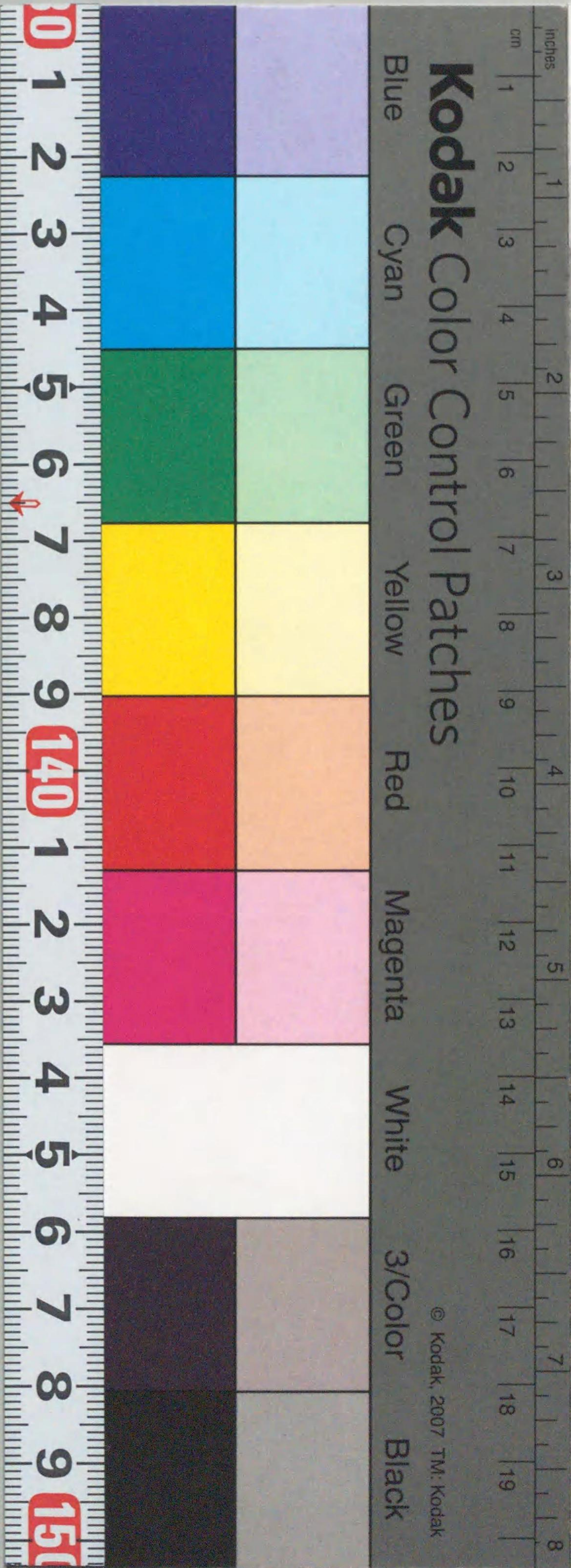


© Kodak, 2007 TM: Kodak

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



308  
666

Y994-J9401



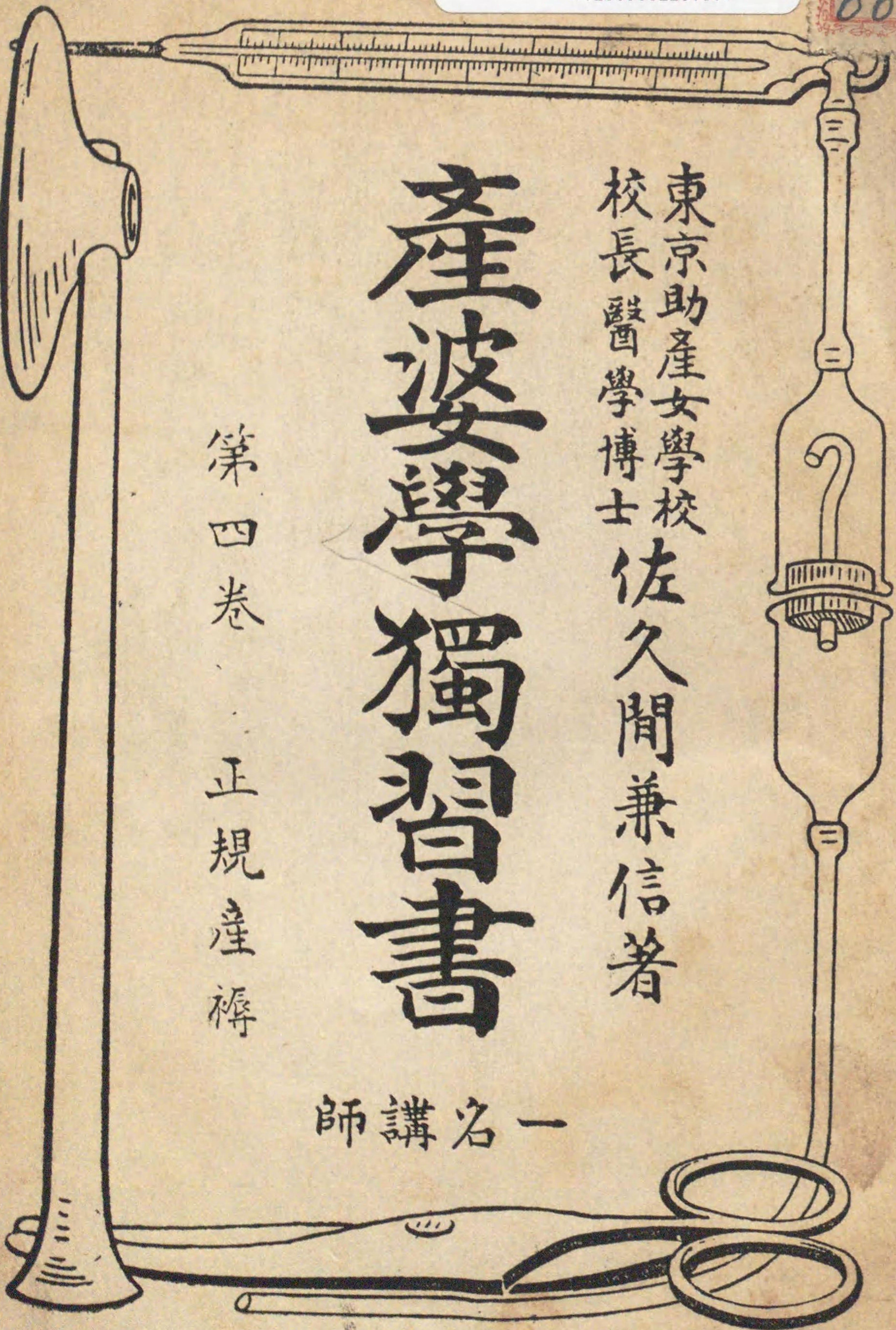
\*1200900220187\*

東京助産女學校  
校長醫學博士 佐久間兼信著

# 產婆學獨習書

師講名一

第四卷 正規產褥





Y994

J9401



此獨習書は、たゞ書齋の机上で出来上つたものではなく、是迄千餘の産婆資格者を送り出した實際の教室から生れ出たものです。本書と教科書を併せ用ひて、これを次の様な様々の役に立たせることが出来れば本望です。

産婆開業者には	受驗生徒には	生徒には	通學中の	遠地在住の爲め 他の事情の爲め	此書物と教科書とを併せて
備忘録となり	記憶用産婆學となり	本教科書を使用せぬ學校では	本教科書使用の學校では	通學し得ぬ生徒には	教科書は
新智識を補足する 講演雜誌ともなる	試験答案集となる	参考書となり	教科書となり	學校の黑板となり	獨習書
		補習書となる	前日の豫習書となる 後日の復習書となる	説明する講師となる	

序



I種  
W



\*1200900220187\*



序

### 獨習に就いての注意

- 一、先づ最初に月日全部に日附を書き込んで、其當日には必と怠らずに、其日課を脩めなさい。
- 一、三ヶ月で全部を脩めたい人は、月日の二日ぶりづゝ同じ日を書き込み、一年で終りたい人は、一日置きの日を書き入れゝばよい。
- 尤も日曜大祭日は休みとするのである。
- 一、毎日の日課としては、教科書につき、其一日分丈けを先づ讀んで、次に獨學書を読みながら教科書の意味を了解して行くのである。
- 一、試験を受ける前には教科書はよく暗記して、獨習書は強いて記憶せずとも、自然に覚えられたらよい位の程度にして置いて、恰度よい
- 一、宿題、書取、誤り易い字、復習、臨時試験の答は、各自の帳簿に順に記載して置きなさい。
- 一、此獨習書の下の方の数字は、教科書の相當頁を示すのである。
- 一、試験問題の上につけてある符號の△は稀に出る問題、○は時々出る問題、◎は最も注意を要する問題の意味です。

月 日 ( 曜日 )

### 講 義

(教科書第四卷一—七頁)

### 産褥の定義

産褥は分娩の終り即ち後産の娩出と共に始まつて、妊娠中や分娩中に受けた生殖器又は全身の變化が、殆ど全く妊娠前の状態に復する迄の期間を云ふのであつて、此期間中の婦人を褥婦と云ふのである。

妊娠中に受けた變化は教科書第二卷第一章に述べた通りである。分娩中に受けた變化の中主なもの、生殖器では創傷、全身では貧血等である。

生殖器の復舊即ち舊の状態に復するのは、假令完全と云ふても、悉く妊娠前の舊態に復するのではなく、一旦妊娠分娩を経過した後は、子宮は大きく、腔も濶くて其皺襞も減じ、創傷は癍痕として残るのである。

(教科書第二卷初産婦と經産婦との鑑別参照) 其故定義に於て「殆ど」と云ふ字を用ゐたのである。授乳期間中は通常月經が閉止するものである。然し例外として授乳中にも拘らず月經の再潮する事

産褥の定義



も少くはない。再潮とは再來の意味である。

第一編	産褥の状態……………
第二編	産褥の診断……………
第三編	褥婦及初生児の取扱法……………

（正規妊娠や正規分娩でも、（一）状態（二）診察（三）取扱の三つに分けて置いた）

の三編に分けて述べよう。

第一編 産褥の状態

第一章 生殖器の復舊状態（復古状態）

第一節 後陣痛及子宮縮小

一、後陣痛

産褥子宮が絶えず一様に収縮して居るのは後陣痛ではない、發作性即ち時を切つて収縮するのが後陣痛である。そして其陣痛が強ければ痛みを起すから後陣痛の有るのを感じずるけれども、弱い時には陣痛はあつても之を感じないのである。

- (一) 而して多くは産後一兩日位の間丈に感じ、あとは痛みとしてはあまり感じないのが普通である。
  - (二) 分娩が速かであつた後殊に第二期の短かつた後には後陣痛も強い、従つて經産婦は初産婦よりも後陣痛を強く感ずるのである。
  - (三) 哺乳乳として居る褥婦は哺乳乳として居らない褥婦よりも後陣痛が強く従つて子宮の縮小も迅速で且つ完全に行はるのである。
- 一體、後陣痛が起ると、子宮筋肉が収縮して其間にある血管を壓迫して貧血を來し、従つて營養障礙のため子宮の平滑筋纖維は縮小し數も減じ、其結果子宮全體も縮小するのである。

二、子宮縮小

子宮底の高さは、片手の小指側を子宮底部に當て、腹壁を靜かに壓して見るとすぐ判る。經産婦には腹壁が甚しく弛緩して居るから眼で視ても明かに判る。

産後十二時間も經つと子宮底が上昇するのは次の理由によるのである。

- 一、膀胱に尿がたまると、子宮の前屈度を減せしめ、且つ子宮全體をも上方へ押し上げるため。
- （尿蓄積一〇〇 蚝 毎に子宮底は約一 糎 上昇）



二、骨盤底筋肉や腔壁筋肉の緊張性が漸く恢復して、子宮を上方へ押し上げるため。橋爪哲造氏の調査によると、子宮底の高さは分娩直後に臍下三指横徑で、一旦昇つて、産褥第三日目に分娩直後と同高まで下り、其後追々下つて行くといふことである。十日目乃至二週目頃には子宮底の高さと恥骨接合の上縁と同じ高さになるので、その半分の五日乃至一週目には丁度臍窩と恥骨接合との間の半分になると思へばよい。

### 第二節 子宮腔部及子宮口

分娩直後には、子宮腔部の前唇と後唇とが二枚の瓣の様に腔内に垂れて、子宮口は一本の手を通過せしめ得る程に開いて居る。二十四時間も経つと、子宮腔部が最早形成せられて、子宮口は著しく閉ぢてしまふ。其後腔部は漸次に縮小して分娩後十二日位になると、子宮内口は最早や一本指をも通過せしむる事が出来ない。只子宮外口のみが少し開いて居るのである。

### 第三節 腔及外陰部

手袋や靴下が一度手足を通した後は幾分大きくなると同じ様に、一度産した後の腔は大きくなつて居る。古い袴の襷が取れる様に一度産した後の腔壁の皺襞は取れるのである。腔壁の弛緩は殊に其前腔壁に於て著しいのである。甚しい時には弛緩して居る前壁が腔口まで露出して來る位である。數回の經産婦では、處女膜の残部即ち處女膜痕が、石榴の様に變ずる事がある。之を石榴狀肉柱と云ふて居る。

### 第四節 創傷の治癒—子宮内膜再生—惡露

一、小さい創傷の治つた後は一寸見れば創痕が判らないが、大きな傷は硬い痕が残るからよく判る。  
 二、子宮内膜は脱落膜の残部の組織から再生せられるものである。元來脱落膜は子宮内膜の變形物であるからつまりそれが昔に歸るのである。産後六十八週で全く昔の子宮内膜の状態に復するので、其時が丁度産褥の終である。若し哺乳せしめない時は其頃から月經が表はれてもよいのである。  
 三、惡露は創傷の分泌物即ち『創液』に、『脱落膜の残部』『血液』『粘液』等を混じて居るものだが、時には「膿」や「卵膜の残片」等を多少混じて居る事もある。そして惡露には一種特有の腥い臭氣があるが、決して強い惡臭はないものである。若しあれば異常と見るがよい。



(1) 血液性悪露は一名血様悪露とも云ふて居る。先づ普通の血液と同じ様なものと思へばよい。  
 (2) 漿液性悪露は又肉漿様悪露とも云ふて居る。之は肉の搾り汁の様に薄くて而も赤い色を呈して居るのである。凡て漿液は薄い液を云ふのである。

(3) 白色悪露となれば最早肉眼にて血液の色を認める事が出来ないものである。白色悪露の頃には其分量は極めて少量であつて平常帯下の多い人であるとしてそれと大した差の無い位である。二三週間の後には最早壓抵布を用ふる必要ない程に少く、其後何時失ふと云ふ事なく漸次に減少して第四—六週に至つて全く排泄を止むるのである。

凡て以上の様に血液の色が漸次に失はるゝと共に其分量を減ずるのが普通であるけれども、早期(一週以内)に床の上に坐り、早期(十日以内)に離床したり、或は身體を激動させると、其血性が濃くなつたり或は分量を増したりするのである。又卵膜や胎盤の一部が子宮内に遺残した時も久しく血性で且つ量も多いものである。

之に反し、授乳婦は通常悪露の量が少なく且つ持続も短かい、又貧血・下痢などの場合にも少ない。

書 取

「さんじよく」「ふくさう」「じゆにゆう」「しゆくせう」「れつこん」「さうしやう、ぶんび

ぶつ」「しやうえきせいをろ」

試験問題

- ◎正規産褥トハ如何 (神奈川、大正元、十) ◎同上 (宮城、大正十五、十)
- ◎同上 (徳島、大正七、三) ◎後陣痛ニツイテ (神奈川、大正七、四)
- ◎同上 (山梨、大正九、四) ◎同上 (鳥取、大正十五、四)
- ◎同上 (奈良、昭和二、五)
- ◎同上 (静岡、昭和二、五)
- ◎同上 (栃木、大正五、十)
- ◎同上 (茨城、大正五、四)
- ◎同上 (新潟、大正七、四)
- ◎同上 (東京、大正十三、四)
- ◎同上 (福島、昭和二、五)
- ◎同上 (神奈川、大正九、四)
- ◎産褥ニ於ケル子宮ノ變化 (東京、大正十一、四) ◎産褥・後陣痛・胎糞ヲ説明セヨ (栃木、大正五、十)
- ◎産褥トハ如何 (山梨、大正十四、十) ◎産褥ニ於ケル子宮ノ状態 (茨城、大正五、四)
- ◎産褥ノ期間ヲ簡單ニ記セ (和歌山、昭和二、四) ◎同上 (東京、大正十三、四)
- ◎左ノ事項ヲ説明セヨ。 (イ)産褥、(ロ)産道、(ハ)クレーデ氏胎盤壓出法 (秋田、大正七、四) ◎生殖器ノ復古機能ニ就テ (神奈川、大正九、四)
- ◎産褥中ニ於ケル生殖器ノ變化 (栃木、大正五、十) ◎産褥子宮復舊状態並ニ悪露ノ性状如何 (慶尚北道、大正六、十一)
- ◎同上 (東京、大正七、四) ◎産褥子宮ノ復舊作用ヲ記セ (京都、大正六、四)
- ◎同上 (東京、大正九、四) ◎同上 (神奈川、大正十三、四)
- ◎後陣痛トハ如何 (神奈川、大正十三、四)
- ◎同上 (新瀉、大正十四、四) ◎同上 (神奈川、大正十四、四)
- ◎同上 (新瀉、大正十四、四) ◎同上 (神奈川、大正十四、十)



第一編 産褥の状態

- ◎ 正規産褥ニ於ケル子宮ノ復古状態 (石川、大正十四、四)
- ◎ 産褥期ニ於ケル子宮ノ復古状態ヲ記セ (岩手、大正十四、四)
- ◎ 同上 (福島、大正十四、十)
- ◎ 子宮ノ復古機轉 (愛知、大正十五、四)
- ◎ 産褥子宮ノ復古ニ就テ記セ (石川、大正十五、四)
- ◎ 同上 (栃木、大正十五、四)
- ◎ 産褥子宮ノ復古状態ヲ記セ (岐阜、大正十五、四)
- ◎ 同上 (大阪、大正十五、十)
- ◎ 正規産褥時ニ於ケル子宮體部ノ復古機轉 (京都、大正十五、十)
- ◎ 産褥ニ於ケル子宮ノ收縮状態並ニ分泌物ニ就キテ記セ (長崎、昭和二、四)
- ◎ 産褥ノ經過ト子宮底ノ高サ (茨城、大正五、十)
- ◎ 産褥子宮ノ高サト惡露ノ關係 (富山、大正十五、十)
- ◎ 産褥ニ於ケル子宮底ノ高サ (東京、大正七、十)
- ◎ 同上 (東京、大正十二、十)
- ◎ 同上 (東京、大正十三、十)
- ◎ 正規産褥ニ於ケル子宮底ノ高サト産褥時日ノ關係如何 (沖繩、大正十五、十)
- ◎ 正規産褥ニ於ケル子宮底ノ位置ヲ分娩後五日間各日ニ就キ説明セヨ (京都、昭和二、五)
- ◎ 産褥第十日ニ於ケル生殖器ノ状態 (大阪、昭和二、四)
- ◎ 分娩後ニ於テ子宮底ノ一時上昇スル理由如何 (栃木、昭和二、五)
- ◎ 如何ニシテ産褥子宮收縮ノ良否ヲ知ルヤ (東京、大正十五、十)
- ◎ 惡露ニ就テ詳記セヨ (慶尚南道、昭和二、四)
- ◎ 惡露ニ就イテ (大阪、大正二、四)
- ◎ 同上 (神奈川、大正五、四)
- ◎ 同上 (東京、大正五、十)
- ◎ 同上 (全羅南道、大正七、四)
- ◎ 同上 (福島、大正七、十)
- ◎ 同上 (山梨、大正七、十)
- ◎ 同上 (東京、大正九、四)
- ◎ 同上 (東京、大正十一、四)
- ◎ 同上 (東京、大正十三、四)
- ◎ 同上 (福島、大正十三、十)
- ◎ 同上 (東京、大正十三、十)
- ◎ 同上 (栃木、大正十三、十)
- ◎ 同上 (岐阜、大正十五、四)
- ◎ 同上 (北海道、大正十五、四)
- ◎ 同上 (高知、大正十五、九)
- ◎ 同上 (沖繩、大正十五、十)

第一章 生殖器の復舊状態

- ◎ 同上 (栃木、大正十五、十)
- ◎ 同上 (兵庫、大正十五、十)
- ◎ 同上 (千葉、昭和二、五)
- ◎ 同上 (群馬、昭和二、五)
- ◎ 同上 (東京、昭和二、五)
- ◎ 惡露トハ何ゾヤ (福岡、大正四、四)
- ◎ 惡露ヲ記セ (東京、大正十二、十)
- ◎ 惡露ヲ説明セヨ (兵庫、大正十五、四)
- ◎ 惡露ノ性状 (兵庫、大正四、四)
- ◎ 同上 (大阪、大正四、四)
- ◎ 同上 (奈良、大正七、四)
- ◎ 同上 (和歌山、大正七、四)
- ◎ 同上 (大阪、大正十四、十)
- ◎ 惡露ノ性質 (茨城、大正十四、四)
- ◎ 正規産褥ニ於ケル惡露ノ状態 (岩手、大正七、四)
- ◎ 惡露トハ如何及ビ其正規ノ變化 (江原道、大正七、四)
- ◎ 正規産褥ニ於ケル惡露ノ經過 (東京、大正六、十)
- ◎ 同上 (北海道、大正七、四)
- ◎ 同上 (三重、大正十四、四)
- ◎ 同上 (福島、大正十五、四)
- ◎ 同上 (佐賀、昭和二、四)
- ◎ 同上 (山口、大正十五、四)
- ◎ 惡露ノ性状及其ノ經過ヲ問フ (栃木、大正十四、四)
- ◎ 同上 (奈良、大正十五、四)
- ◎ 産褥中ニ於ケル惡露ノ變化ニ就テ記セ (宇和島、昭和二、五)
- ◎ 正規産褥ノ子宮收縮状態ト惡露ノ變化ヲ述ベヨ (神奈川、大正十三、十)
- ◎ 惡露、分娩後ニ於ケル子宮ノ變化 (鳥取、大正十五、十)
- ◎ 左ノ事項ヲ説明セヨ (千葉、大正十四、十)
- ◎ (イ) 娩出力。(ロ) 惡露



産あげく亭主を使ふ癖になり  
 南無女房乳を吞ませに化けて来い

月 日 ( 曜日 )

復習

- (一) 産褥の期間は？
- (二) 後陣痛とは何か？
- (三) 子宮底の高さが恥骨接合の上方にて觸れ得なくなるのは何日頃か？
- (四) 悪露の種類は？

講義

(教科書第四卷七一〇頁)

第二章 乳汁の分泌

一 初乳 (前乳)

初乳は既に妊娠中から分泌して居つたのであるが、分娩後其分量を増し、引續いて産褥の第八日頃迄は分泌さるゝのである。然し産褥第三―四日より常乳の分泌も盛に初まるから、其以後は肉眼では殆ど常乳のみの様に見えるのである。

初乳球は初乳中に認むる外、常乳が哺乳せられずに滯つた場合にも現はるゝものである。即ち之は一種の白血球であつて、排泄せられない不要な脂肪小球を自分の体内に收容し且多少變化させて、之を淋巴管の方へ運び去る役目をするものである。初乳の中には蛋白が多量にあるから之を飲めば相當の營養になるわけである。殊にその蛋白は生れたばかりの初生児の消化力に尤も適せるものである。

二 常乳 (成乳又は眞乳)

産褥第三―四日になつて、乳房が腫大緊張する頃には、其内部に結節状又は索状に張つてゐる乳腺を觸れ得るのである。(結節状はコブ／＼の状、索状は細長いひもの状)



常乳は哺乳さへ續けて居れば二年でも三年でも多少は分泌し得るものである。然し一年以上哺乳せしむる事は、母子何れにも有害なものである。即ち小兒の發育を妨げ又は種々の病氣を起したり、母も亦虚弱になる憂があるのである。

常乳の分泌量は、體質營養等により様々であるが、(1)強き精神感動、身體の過勞、下痢、重病等の際に減量し、(2)多量の營養品殊に飲料を攝ると増量するものである。

### 三 月經と排卵

授乳婦には月經のないものとされてゐるが、其半数強の者には授乳中にも月經が出るといふことである。早いのは既に産後一―二ヶ月で出ることもある。然し一般に其量は普通より少量で、不規則なものである。

月經時に乳汁が變ずるか否かは未だ不明であるが、其時乳兒に幾分か消化不良を起す事は事實として認められて居る。然しそれが爲めに授乳を止める必要はない。

又母體の病氣の爲めに乳汁の性質の變る事は明かである。

#### 試験問題

### 復習

- (五) 初乳球とは何か？
- (六) 常乳が分泌し初めるのは産褥第幾日目頃からか？

### 講義

(教科書第四卷一〇―一四頁)

月 日 (曜日)

椿散るうばの在所や初衣沙汰

- ◎初乳ニ就テ記セ。附、之ヲ初生兒ニ與フル利害  
(熊本、大正七、五)
- ◎初乳ニ就テ記セ  
(福島、大正十五、四)
- ◎初乳ト乳汁トノ區別  
(大阪、大正五、四)
- ◎初乳ト成乳ニ就イテ記セ  
(兵庫、大正十五、十)
- ◎産婦ノ乳汁分泌ニ就テ  
(島根、大正十五、四)
- ◎初乳、産褥ヲ説明セヨ  
(山梨、大正十五、四)
- ◎産婦ニ特有ナル分泌物ノ種類ヲ略述セヨ  
(熊本、大正十五、四)



第三章 産婦全身の状態

全身の状態は妊婦全身に起る變化又は分娩の産婦全身に及ぼす影響と同じ順序に記憶するとよい。

第一節 體重

體質の弱い婦人殊に初産婦では體重の恢復に數ヶ月を要する事がある。

第二節 體温

正規の産褥は全く無熱に経過すべきものである。即ち三十六度何分と云ふが普通であるが、第一日に三十七度何分に昇ることは稀でない。之は分娩時の筋肉労働の結果と見られるのである。第三四日頃に第二回目の發熱のある頃には、恰度乳腺が著しく腫脹して乳汁の分泌も盛となる頃であるから、昔は其乳汁の一部分が血液に吸収せられたが爲めに起つた熱と考へて之を乳熱と稱したのである。然し今日では之は既に幾分傳染された生殖器の創傷分泌物が血液中に吸収せらるゝによつて起る吸收熱であると見做す人が多い。従つて、消毒を嚴重に行つた場合には起らないといふ事

である。

其他産褥中は體温が變化し易く、精神感動又は僅少の障礙で容易に發熱するものである。

第三節 脈搏

脈搏は分娩直後には少し數が増して、三日目頃に再び僅かに増す事があるが、其後は平常よりも却つて數が少いのが普通である。即ち平時は六十一八十であるが、産褥時には六十以下時には五十以下甚しきは四十以下であつて而も異常ではない、之を産褥性遲脈といふのである。産褥中の脈搏は體温の様に甚だ變化し易く、精神感動又は僅少の障礙で容易に其數を増すものである。

體温や脈搏に異常があるのは産褥熱か或は其他の疾病の有る證據であるから、産婆は常に體温脈搏に注意し、其異常を發見し次第醫療を乞はしめなければならぬ。然るに三十八度以上の熱の有るのを乳熱と思つて油斷して居ると、それが産褥熱であつて治療の時期を失せしめる事もあらう。又脈が早くても熱がないからよい等と油斷して居ると、心臟病其他の異常を知らずに過してしまふ虞がある。



### 第四節 呼吸

呼吸数は妊娠中と大差はないが幾分か遅いのである。

### 第五節 食欲及便秘

食欲の減ずる時には多くは口が渴くから只徒らに湯茶を飲みたがるものである。便秘は兎角便秘し易いものであつて、甚しく糞便が蓄積すると悪露の排泄が妨げられて發熱を來す事がある。

### 第六節 利尿

産褥中に尿利の少いのは腎臓に於ける尿の分泌の少い爲ではない。其量は妊娠中に比すれば少いが平時に比較すれば却つて多いのである。只それが膀胱に溜溜しても排尿し得ないのである。全く出なければ之を尿閉と云ふて居る。若し尿が少量づゝ漏れて出る時は之を尿失禁と云ふて居る。之は分娩の結果膀胱の括約筋が痙攣した爲めか或は膀胱瘻の爲めに起るのである、膀胱瘻と云ふのは骨盤

狭窄で分娩が長延いた結果膀胱と膈等との間に生じた瘻管(ゆきぬけの管)を云ふのである。

### 第七節 皮膚及褥汗

褥婦の發汗する理由は (一)飲料を多く取る事 (二)身體を温保し居る事 (三)授乳等により疲勞せる爲め等である。

皮膚の着色 殊に腹壁正中線の着色は次第に薄くなつて、妊娠線も間もなく色が褪れて白色となるのである。分娩直後には腹壁の弛緩が著しいから皺襞も多いが、次第に緊張度を恢復するのである。然し全く妊娠前の通りにはなれなく、時には直腹筋の間が正中線で離開した儘残ることがある。

### 第八節 精神

健康な褥婦は自覺快適即ち苦痛も何も無くて氣持のよいものである。只後陣痛の爲めに多少悩むとか、外陰部に灼熱を覺えるとか、或は排尿時に幾分痛みを感ずる事は有り勝ちであつて、又産褥の初め數日間は神経が興奮し易いのである。

健康な褥婦は自覺快適即ち苦痛も何も無くて氣持のよいものである。只後陣痛の爲めに多少悩むとか、外陰部に灼熱を覺えるとか、或は排尿時に幾分痛みを感ずる事は有り勝ちであつて、又産褥の初め數日間は神経が興奮し易いのである。



「くわいふく」「さうはく」「がんぼう」「にゆうねつ」「くわんじよ」「しよくよくかうしん」「しよくもつせつしゆ」「すゐみん」「じよくかん」「しつじゆん」「じかくくわいてき」「すゐみんをんせい」「しんけいこうふん」

類字

蒼白、創傷、瘡瘍、緩徐、援助、溫暖、褥汗、汗染(又は汚染)、乳汁、濕潤、擴潤、快適、快々、決定、穩靜、隱元豆、興奮、與黨、與論、名譽。

試験問答

- ◎産褥二週間内ニ於ケル褥婦ノ呼吸脈搏及惡露ノ性状 (大阪、大正四、四)
- ◎産褥ノ正規經過ヲ問フ (神奈川、大正六、十)
- ◎正規産褥ノ經過ニ起ル全身ノ變化ニ就テ知ル處ヲ記セ (茨城、大正十一、四)
- ◎産褥ノ經過ノ良否ハ何ニヨリ判定スベキヤ (福島、大正十五、十)
- ◎産褥ノ經過ニ就キ注意スベキ點ヲ擧ゲヨ (山口、大正十五、十)
- ◎産褥ノ經過ニ就ル全身ノ變化ニ就テ知ル處ヲ記セ (岩手、大正十三、十)
- ◎産褥ノ經過ニ對スル看護上ノ注意事項 (茨城、大正十一、四)
- ◎産褥ノ經過ニ起ル全身ノ變化ニ就テ知ル處ヲ記セ (兵庫、大正五、四)
- ◎産褥ノ經過ニ對スル看護上ノ注意事項 (静岡、大正二、十)
- ◎産褥ノ經過ニ對スル看護上ノ注意事項 (大分、大正十五、十)
- ◎産褥ノ經過ニ對スル看護上ノ注意事項 (東京、大正七、十)
- ◎産褥ノ經過ニ對スル看護上ノ注意事項 (徳島、大正十五、十)
- ◎同上 (同上)
- ◎同上 (同上)
- ◎同上 (同上)

知識なき熱心は愚痴の姉妹なり

月 日 (曜日)

復習

- (七) 所謂乳熱は産褥凡そ何日目に發するか?
- (八) 産褥第一日に尿閉を來し易き理由は?

講義

第四章 初生兒の状態

第一節 體重

一、減量



初生児の分娩後三—四日迄の總減量は一般に云ふと分娩時體重の五—一〇%であつて、或る人は平均二二〇瓦と云ふてゐる。早熟児や人工營養児では其減少の割合が甚しいものである。(減少の絶對量は重い児程多いのだが、體重との比較量は早熟児の方が多く減ることになる)

産後三—四日目迄(常乳の充分出るまでの間)は、初乳(又は砂糖水、サツカリン水等の水分)のみを與へて他に牛乳などを與へない方が却つて此減量を少なくし得るのである。之に反して初乳の量が足りないからとて牛乳等を與へると、却つて體重の減少が多いのである。之は牛乳に營養價はあるが初生児には未だ牛乳を十分に消化吸収して身體の成分とする力が足りないからである。

若し初乳分泌の量が不十分の時は、初め一兩日は牛乳を與へるよりも薄い砂糖水とかサツカリン水などを與へる方がよいのである。

### 二、増量

八—十日で分娩直後の體重に復するのは自然營養児の事で、人工營養児はもつと遅いのである。何れにしても、此の體重恢復までの期間を初生児と稱する人がある。

體重恢復の後第一ヶ月は十日を減じた二十日間で八〇〇瓦増すのであるから、一日平均は四十五

宛増す事になる。次の第二ヶ月は三十日で八〇〇瓦を増すのであるから、一日は平均二十六瓦餘を増す事になる。

第三ヶ月以後十二ヶ月まで(即ち哺乳児と稱する間)は、著者の考案した式を應用すると、其月に對する倍數の數が出るのである。例へば…

第四ヶ月では  $\frac{4 \times 4}{4+4} = 2$  即ち分娩時に三千瓦の者は其二倍の六千瓦となる。

第六ヶ月では  $\frac{6 \times 4}{6+4} = 2.4$  即ち分娩時の弱二倍半となる。

第十二ヶ月では  $\frac{12 \times 4}{12+4} = 3$  即ち分娩時の三倍となる。

### 第二節

#### 體温

初生児に來る熱の中には、無論危険な病的熱もあるが、中には大して心配に及ばない一時的の熱即ち一過性熱といふのが屢々起るものである。次にそれを述べやう。

#### 一、渴熱(一名饑餓熱)



原因

身體中の水分が不足するために起るものと見られてゐる。従つて體重が最も多く減ずる頃即ち産後三、四日目に來るのが普通で、體重減少の度の多いもの程其率が多い。或る統計では初生児三人につき一人の割に見るといふが、尙ほ少ないと見る人もある。

症状

- (一) 三十七度五分以上三十八度何分が最も多く、時に尙ほ高いものもあり、稀には四十度以上のこともある。
  - (二) 通常は一日以内だが、時に二日又は三日と續くこともあり、稀には一週間も續くものもある。
  - (三) 通常脈が稍多くて、胎糞の量が少ないと云ふ他には、何處にも熱の出る様な原因を見出し得ないものである。
- 只少し重いになると、不安、不機嫌、啼泣等がある位で、時には反對に疲れて眠つてのみあることもある。

處置

稀い砂糖水、又は五千倍サツカリン水等を茶匙に二三杯位づゝ一二時間おきに與へると、早いのは數

時間の後に下熱し、長くても翌日には下熱する、三、四日も續くのは餘程稀である。(或は生理的食鹽水を同量づゝ注腸してもよい)

二、腸内細菌性熱

胎兒が母胎内にゐる間は、其腸内には細菌は少しもなく、分娩直後も無菌だが、一度生れて外界に出ると、口などから細菌が侵入し、それが腸内で繁殖する。それで原因不明の熱のある初生児の便を調べて見ると、その中に色々の細菌があるが、就中人體に有益な乳酸菌が盛に繁殖して、それによつて雑菌の方が敗けて毀されると、その際に毒素が出てそれが腸壁から吸収されて一過性の熱となつて現はれるのだといふ人もある。尤も此の場合に腸内の細菌中大腸菌があれば熱を起し、それがなければ熱も出ないといふことである。

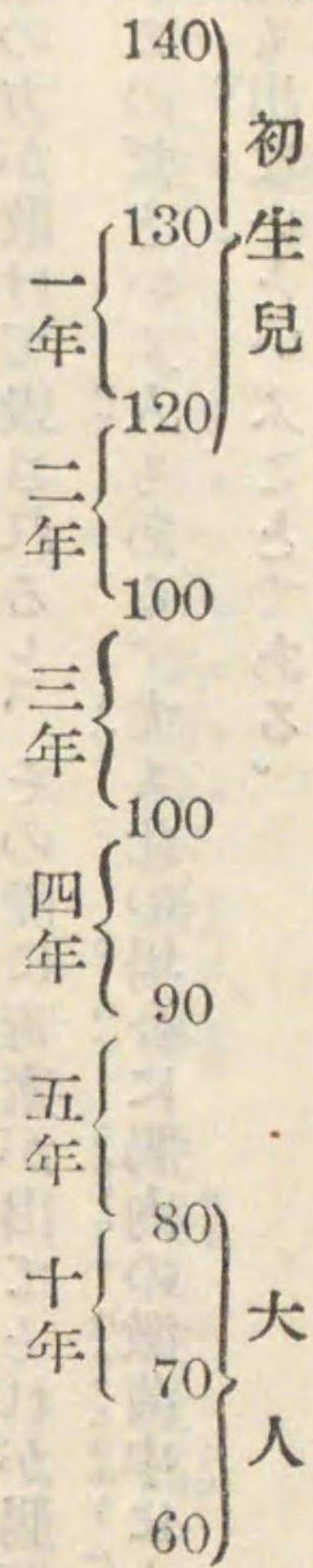
三、鬱積熱

一體溫血動物には體溫調節作用があるから、外界の溫度によつて體溫が左右されない筈なのだが、初生児には此調節作用が不十分だから、周圍から温め過ぎると、體溫を十分に放散せしめ得ないで、そ



それが体内に鬱積して高熱を出すことがある。その時は顔を赤くし、汗を出し、苦しそらに呼吸をして、脈も早くなるが、周囲の温度を適當にすれば直ちに常温に復し得るのである。

### 第三節 脈搏



右に示す通り初生児の脈搏数は妊娠中の胎児の脈搏数と殆ど同じである。此脈搏数も極めて變化し易いもので、靜かに眠つてゐる間は百二十位だが、啼くか、或は強く動いた後などには直に百四十以上百六十位にもなるのである。然し別に病氣でない限りはやがて間もなく舊に復するものである。

### 第四節 呼吸

一、初生児の第一呼吸。胎児娩出直後に發する呱呱の聲即ち初聲は初生児の第一呼吸によつて發する

のである。

理由。胎児の全部又は一部が娩出すると、子宮は收縮して其中の血管を壓迫するから、胎盤に行く血液も少なくなり、兒の血液中に酸素の缺乏と炭酸の蓄積を起す、斯様な悪い血液は延髄にある呼吸中樞を刺戟し、それで呼吸運動を起すに至るのである。

尤も分娩後皮膚の冷却や接觸等の刺戟も亦幾分か助けになるのである。

二、初生児の呼吸は淺くて甚だ不規則で時としては永い間歇を見る事があるけれども、必しも異常ではない。然し睡眠中は割に規則正しいのである。

### 第五節 消化器—糞便

消化器と糞便の状態は獨習書第壹卷二二頁を参考するとよ。

胎糞(胎便又は胎尿)は分娩後總て七〇—一〇〇瓦出る。これは胎児が子宮内に生活してゐた間に腸に蓄積したもので、毳毛等を含んでゐるのは羊水を飲み込んだことがある證據である。

自然營養便は、一種特有な芳香性の甘さうな臭を有つてゐるが、決して成人の便の様な惡臭はない。若し綠色褐色赤黑色等になつたり、白色の顆粒(つぶつぶ)を混じたり、水様になつたりして、



一般症状も起す様なものは病的と見なければならぬ。

### 第六節 尿

一、第一回の排尿は通常分娩の直後に行はるゝもので、時には第一日又は第二日には全く排尿しないこともある。

二、初生児の排尿数は襁褓の交換回数で定めるわけにはゆかない。之は一つの襁褓に数回分を重ねて排尿する事があるからである。尿量が餘り少い時は飲料が不充分ではないかと注意するがよい。二ケ日以後の乳兒なら或は脚氣等の病氣があるかも知れない。

三、分娩直後に出る尿は殆ど無色透明だが、其後数日間は濃く黄色に濁つて、襁褓に煉瓦の粉の様な赤褐色の物を留めることがある。素人は一寸驚くが、之は腎臓から出た尿酸の結晶であつて、別に心配のものではない、乳を澤山飲む様になれば尿は又無色透明になるのである。

### 第七節 皮膚—臍帯脱落

一、生理的黄疸でも稀には二週間以上も續く事がある。早産兒・骨盤端位の初生児に著しいのである。

女兒よりも男兒に多い。

生理的黄疸は何等の障礙も無いが、病的黄疸は其原因たる疾病が存在するのであるから種々の障礙が起るのである。例へば體重減少・發熱・不穩等があつて、黄疸は強度で持續日數も長く、襁褓に尿の爲めに黄色に染まるのである。

二、落屑といふのは剥れて落つること、多くは膜狀に剥れるのである。

三、臍帯脱落は稀には十日以上を要する事がある。細い臍帯は却つて脱落が遅れるのである。臍帯の斷端や脱落後の創面に不潔なる布片又は不潔な手殊に惡露の附着せる手を觸れると、其部分から細菌が侵入して化膿性臍炎・破傷風・丹毒等をして其生命をも奪ふ事がある。

分界線と云ふのは周囲の生活組織と壊死組織との間の線で、其界が輪狀に發赤するのが常で、之は生活組織が壊死組織に對する反應である。肉芽といふのは血管に富んでゐる幼弱の結締織で、後に血管が失はれ水分も去つて白色に硬くなつたのが癩痕である。

### 第八節 睡眠と啼泣

此項は褥婦の「精神」の條項に相當するから其積りで記憶するとよい。



初生児に「御氣分は如何ですか」と尋ねても判る筈はないから、それは只睡眠と啼泣の様子で察しなければならぬ。

### 第九節 乳汁分泌

初生児に乳汁分泌のあるのを不思議がつて度々壓出すると、容易に分泌が減退しないのみでなく、終には乳腺炎を起す虞れがあるから注意しなければならぬ。其他女児には時として月経様の出血のあることがある。

#### 書 取

「かんさう」「たいふん」「わうだん」「らくせつ」「にくげ」「おしゆく、かんぼつ」「きがねつ」「ていきふ」「まにゆう」

#### 類 字

倍数、位置、哺乳、補助、黄疸、脱疽、胆汁、落屑、眉間、肩胛。

#### 試験問題

- ◎初生児ニ於ケル變化ヲ略述セヨ (熊本、大正十五、十)
- ◎初生児身體ノ状態ニ就テ記セ (福岡、大正十五、十)

- ◎健康ナル初生児ノ生活状態ニ就テ (山梨、大正七、十)
- ◎初生児發育ノ状態 (徳島、大正十四、四)
- ◎分娩後凡ソ一週間ヲ経過シタル初生児ノ状態ヲ記セ (栃木、大正七、九)
- ◎新生児ノ體重ニツキテ記セ (岐阜、大正十五、四)
- ◎新生児體重ノ變化及其理由 (大阪、大正十四、四)
- ◎産後三週間以内ニ於ケル健康ナル新生児ノ體重ノ變化ヲ記セ (大阪、昭和二、四)
- ◎初生児ノ呼吸、脈搏、體温、體重ニ就テ記セ (静岡、大正十五、四)
- ◎同上 (千葉、大正十四、十)
- ◎健康ナル産婦及初生児ノ體温ハ何度ナリヤ (千葉、大正六、四)
- ◎初生児ノ脈搏、尿利、便通ノ數 (神奈川県、大正十三、四)
- ◎胎糞ニツイテ記セ (大阪、大正四、四)
- ◎胎糞ヲ簡單ニ説明セヨ (栃木、大正十二、十)
- ◎胎糞、初生児消化不良便、初生児母乳及人工營養便ノ區別ヲ擧ゲヨ (福井、昭和二、五)
- ◎初生児ノ尿及ビ便通ニ就テ知ル處ヲ記セ (東京、大正十三、十)
- ◎初生児ノ尿利及便通ニツイテ (江原道、大正七、四)
- ◎同上 (神奈川県、大正十五、四)
- ◎同上 (福井、大正十五、四)
- ◎同上 (岩手、大正十五、十)
- ◎同上 (福岡、昭和二、五)
- ◎初生児排尿ノ状態ヲ記載セヨ (和歌山、昭和二、四)
- ◎産婦及初生児ノ排尿ニ就テ (京都、大正十五、四)
- ◎初生児黄疸ニ就テ (山梨、大正七、十)
- ◎同上 (鹿兒島、昭和二、四)
- ◎同上 (神奈川県、昭和二、五)
- ◎同上 (奈良、昭和二、五)
- ◎同上 (兵庫、昭和二、四)
- ◎臍帯切斷端及脫落面ノ處置 (静岡、大正十五、十)
- ◎臍帯ノ脫落スル時期 (和歌山、大正二、四)
- ◎沐浴後臍帯斷端ノ處置及臍帯脫離ノ状況如何 (静岡、大正十四、四)
- ◎左ノ事項ヲ答ヘヨ
- (イ)産褥子宮復舊ノ時期
- (ロ)褥婦臥床ヲ離レテ差支ナキ時期
- (ハ)臍帯ノ脫落スル時期
- (ニ)初メテ授乳スル時期
- (ホ)初乳分泌ノ時期
- ◎初乳(魔乳鬼乳)ヲ簡單ニ説明セヨ (栃木、大正十二、十)



高い／＼と子に見せる巢の燕  
 藝も出来片言口の齒が二枚  
 睨みつこ傍に居る子は啼き出し  
 言ひたさを後へ廻して子を寐かせ

月 日 ( 曜日 )

復 習

- (九) 初生兒最初の體量減少は通常何日目で分娩直後の量に復するか、其減少の全量は何程か？
- (一〇) 胎糞排出及び初生兒黄疸發現の期間並に臍帶脫落の時期は？

講 義

(教科書第四卷二一—二二頁)

第二編 産褥の診断

一、『褥婦』であること云ふ事を診断するには次の三つの徴候に注意を要する。

- (一) 不確徴
    - これは産褥以外にも起り、又産褥に於ても無い事もあるものである。
    - (1) 顔面蒼白・疲勞の状。
    - (2) 腹壁の弛緩・着色・妊娠線。
  - (二) 半確徴
    - これは産褥以外にも起り得るものであるが、産褥時には必ず起る徴候である。
    - (1) 乳暈乳頭着色、乳房の腫大緊張、初乳又は乳汁の分泌
    - (2) 陰脣の腫張、生殖器粘膜の藍赤色、陰脣繫帯又は會陰の裂傷、惡露分泌
- 其他内診をすれば子宮腔部や子宮の状態も判るけれども、産褥の初めには濫りに内診するのは宜しくない。

(三) 確 徴

第四章 初生兒の状態

...



之は産褥以外には起り得ないもの。

悪露の中に卵膜や脱落膜を發見すれば確かである、然しそれが果して卵膜か脱落膜かを確かめるには顯微鏡の力によらなければならぬから、産婆には出來ないものである。

- 一、以上の様に産褥であるか否かを定める必要は滅多に起らないのだが、嘗て次の様な場合があつた。或産科の病院で早朝生れたての赤兒が便所に落ちて居たので、誰が落したのであらうと大騒ぎになつて、入院中の妊婦を皆調べても皆お腹には變りは無し、看護婦を健康診断しても變りは無し、其外の女は外から來て居る附添人ばかりであつたが、之等は何れもよく立働いて居つてまさか今朝お産したと云ふ様な者も無かつた。處が其中で一人廊下を四つ這になつて雑巾掛をして居つた女がポタリと血液を垂らしたのを、老看護婦がチラリと見掛けて、呼び寄せ、詰問したが、月經だと云ふてどうしても白狀しなかつた。そこで私が外診して見ると、初乳の分泌・腹壁の弛緩・子宮の觸知等によつて疑もなく褥婦であると云ふ事を發見して遂に白狀させた事があつた。
- 二、『初生兒』であるか否かの診断を要する場合はあまりないが、棄兒等があつた時それが果して初生兒か否かを定める必要のあることもある。
- (一) 流産兒早産兒ならば、妊娠各月の状態を知つてゐなければならぬ。

- (二) 分娩直後の初生兒に對しては、分娩によつて受けた影響を調べねばならぬ。
- (三) 初生兒といふ診断を下すには、無論初生兒の状態中に述べた事柄を注意することが必要である。

試験問題

◎褥婦ノ徴候

(群馬、大正十一、四)

月 日 ( 曜日 )

講 義

(教科書第四卷二三—二八頁)

第三編 褥婦及初生兒の取扱法

正規産褥の處置と云ふ問題に對しては、褥婦の外に初生兒の取扱を忘れてはならぬ。

取扱と處置とは同じで、看護法は其中の看護上に關する事項で、注意は取扱中の注意事項即ち注意すべき要點だけで詳細の方法は述べないでもよい。又攝生法は取扱中の一部分で、褥婦自ら守るべき養生法であるから、産婆の行ふべき方法とは別物である。

第一章 褥婦生殖器に關する事項



次に述べる取扱法は、凡て第一編の産褥の状態と同じ順序にしてあるから、それと比較して記憶するがよい。

### 第一章 褥婦生殖器に關する事項

#### 一、産婆の注意すべき諸點

(1) 後陣痛の強弱は主に問診で定め、(2) 子宮の状態は外診で定め、(3) 創傷治癒の状態及び悪露の状態は外陰部消毒の際に注意するのである。  
正規産褥子宮には壓痛はないものであるから、若し強い壓痛があるなら、傳染其他の異常があるものと思はねばならぬ。【壓痛】壓した時に起る痛。

#### 二、外陰部の處置

分娩直後の外陰部の消毒は、教科書第一卷に述べたから、其處を尙一度復習するがよい。  
壓抵布、丁字帶、腹布團、腹帶等の作り方も前に述べておいた。  
産褥看護婦の附添ふて居る時には少くも一日に二、三回凡そ時間を定めて外陰部を消毒して悪露を

拭き取つて壓抵布を更へなければならぬ。成るべくは其前に排尿排便させるがよい。  
産褥看護婦を附けぬ家庭では、理解ある家人に大體の方法を教へてそれを頼み、決して褥婦自身にさせてはいけぬ。  
外陰部を淨拭する際には臀部の下に受器を置くか、或は防水布及び脱脂綿等を置いて消毒液の滴つたのを吸収させるがよい。それには通常先づ外陰部の皮膚を略方消毒し、次に左手の示指と拇指とで小陰脣を開き、別の脱脂綿を用ゐて粘膜殊に皺襞の間を綿密に淨拭するのである。前に述べた様に周邊の不潔部に觸れた綿を中央部に觸れてはいけぬ。又一度拭いた綿を裏返して拭いてはならない。綿を儉約しやうと思ふなら滴度に小さく切つた綿を度々取り換へるのがよい。  
洗水器を用ゆる時には、無論、部に挾込便器(又は腰枕と共に其他の受水器)を置いて、洗水器の嘴管から出た液を注ぎかけ、消毒した手と綿を用ゐて前の様に淨拭するのである。  
悪露の附いた壓抵布を醫師に見せる時には、何時間貼てい、あつたかを告げなければいけない。之は悪露の量を定める上に於て必要な事柄である。  
腔の洗滌は醫師の命令の無い限りは行はぬが安全である。外陰部粘膜や腔粘膜に觸るべき消毒液は、手指消毒に用ゆる場合と同じか又はそれよりも約二倍稀薄くした方がよい。



### 第二章 乳汁分泌に關する事項

乳量乳頭が不潔であると、乳児に害が有るのみでなくて、往々乳腺炎等を起す事があるから、授乳の前後には必ず二%硼酸水か清潔の微温湯できれいに拭き、之れに觸れる手は清潔にして置き、平素はガーゼにて被ふておくがよい。

乳汁の性質に注意すると云ふ事は、膿や血液が混じてはるぬかを見る位であつて、肉眼では普通に見える乳が果して乳児に適するか否かを定めるのは困難である。只指拇の爪の上に滴した乳汁の一滴が少しの運動で流れる様では稀薄過ぎるのであるから、其時は醫師に適否の判定を乞ふがよい。

### 第三章 褥婦全身に關する事項

之は褥婦全身の状態と同じ順序に述べてある。

#### 第一節 全身の大體

褥婦の顔貌で異常の有無が大體は判るけれども、中には異常の有るにも拘はらず案外元氣な人がある

から、特に體温脈搏は必ず忘れない様に診なければならぬ。

#### 第一節 體温

體温及び脈搏等は之を體温表に記すがよい。假令熱があつても朝は無熱に見える事があるから、本來は少くも朝夕二回毎日同時刻に計らなければならぬ。體温の取り方は第七卷に詳しく述べてある。

#### 第三節 脈搏

脈搏は數の多い時には、其大小・強弱・整不整等をも綿密に見なければならぬ。脈は通常橈骨動脈で診るもので、示中環の三指を用ふるのである。

#### 第四節 食物—便通

産婆は毎日褥婦に食慾の有無を聞き、且つ食物に就いて注意を與へねばならぬ。産後の食物は昔は甚だ嚴重であつて、或は鹽氣を全然絶つたり、又は酸味梅干の類を嫌ふたものであつたが、今では只産



後の消化器が消化し得る様に料理したものであるならば大概は何でもよいと云ふ事になつて居る。そして禁すべき品物は妊娠中の禁忌と同じと心得たらよい。

以上は勿論産後の疲勞も少ない別に病氣のない褥婦の場合であつて、他に異常が有る時は、醫師の指圖によつて食物を與へなければならぬ。例へば浮腫の有る様な時には寧ろ鹽氣を絶つ必要が有る事もあるし、胃腸病の時は分量其他に種々の注意があるべき筈である。

その外産後には乳汁を多く分泌せしむる爲めに成る丈け流動性食物を多く與へるがよい。然しお茶や珈琲等は假令薄くともあまり多量に飲むと害が有るから、麥湯葛湯等を與へるがよい。昔から鯉の味増汁(こひこく)がよいと云ふが、鯉の中に特別に乳汁を分泌する成分が有るとも思へないが、相當に營養價の有ると云ふ事と、液體の多いと云ふ事により、乳汁分泌を多くする事に適すると思ふ。

産後に副食物の種類を毎日換へる事は食欲を促すに必要である。芥子・山葵・山椒・胡椒・蕃椒・生薑等の薬味料は絶對的に禁ずると云ふ譯でもない。調理の都合上薬味の極少量を用ひるのは食欲を元め消化液の分泌を促すと云ふ利益がある。又吸物に柚や木の芽を一寸あしらふ位は差支ない。然し假令極微の薬味を用いた料理でも、同種類の料理を多量に食すれば結局薬味の分量が多くなるから、無論有害である。

食物の量は不足なき様又過食しない様、食欲に應じて適量<sup>◎</sup>を供給する様に考へねばならない。無論乳として失はれた分をも補はねばならぬから、平素よりも多量<sup>◎</sup>を要する譯である。

食へる方を考へると同時に、出る方も考へなければならぬ。便秘に關する注意は妊婦攝生法の條下にも述べた。灌腸の方法は後に第七卷で詳しく述べよう。

### 課外講義

#### ◎産褥食物の調理法

産褥中只お粥と玉子ばかりでは食欲を進める事が出来ないから、日々に變つた獻立で而も滋養分に富んだ消化のよい料理を供さねばならない。

#### 第一 重湯、粥類の拵へ方

##### 一、米の重湯

米五勺、水三合 (水は米の約六倍)

右を鍋に入れて弱い火で一時間以上水が一合位になるまで煮つめ、食鹽の少量を加へて布袋又は毛篩



で漉して供する。

米の代りに糯米を用ふる時は、少しく水加減を多くしなければならぬ。

△おねばと云ふのは、重湯とは異つて、米を炊く時に表面に浮いて来る粘つた汁を云ふのである。

二、粥

米五勺、水二合

右を鍋に入れて弱い火で三十分以上、おねばの溢れぬ様に注意して煮るのである。

三、おぢや

米五勺、鯉節だし汁(又はスープ)二合、鶏卵一個、醤油及鹽少量

右の中玉子以外の品を鍋に入れ、文火で三十分以上煮、おろして後、別の碗に割つた玉子をかき混ぜて供する。

「野菜入のおぢや」を作るには軟い野菜を細く切り、おぢやの半通り煮えた時に混ぜると宜しい。だし汁の代りに牛乳を用ふるもよろしい。又牛乳と味噌汁とを混ぜると味がよくなる。

四、オートミールの粥

オートミール 食匙二杯、水三合

右二品をとろ火で二十分以上煮て、食する時に煮立つた牛乳一合をかけ、食鹽又は砂糖を添へるのである。或は牛乳の代りに玉子又は葛澱をかけるもよろしい。砂糖を加へた時は香料としてレモンエッセンスの一滴又はヴァニラエッセンスの數滴を加へると菓子代用ともなる。

オート(燕麥)のミール(挽割)は舶來の罐入として西洋食料品店に賣つて居る、クエーカーオートと云ふのは良い品である。近來は邦製品のパーレー(大麥)のミールが賣り出されてある。

五、食パンの粥

食パンを薄く切つて狐焼として細かく千切り、水又は牛乳を加へ食鹽の少量を入れて煮るのである。食鹽の代りに砂糖を加へてエッセンス又は果物の汁を入れて菓子の代用としてもよい。

第二 褥婦用スープ及び汁類の拵へ方

一、馬鈴薯スープ

牛乳五勺、燂て漉した馬鈴薯二勺程、メリケン粉半食匙、食鹽少量

先づ燂た馬鈴薯を皮を剥いた後毛篩で裏漉しをし、牛乳と一緒に鍋で煮て、メリケン粉を振り込み、よくかきまはして鹽を加へ、鍋よりおろして漉して供する。



最初に玉葱を薄く切つたのを牛乳で煮て、葱を掬ひ去つた後の牛乳を用ふるとよい味が出る。

二、青豆入のクリームスープ

罐詰の青豆三勺、水二勺、砂糖少量、牛乳五勺、メリケン粉半食匙、食鹽少量  
青豆を水洗ひをし、水と砂糖で煮て毛篩で裏漉しをし、メリケン粉を振り込み、文火に掛けてよくかきまはし、煮立つた牛乳と食鹽とを加へ又裏漉しをして供する。

三、産褥滋養スープ

牛肉五十匁、蛤又は蜆剥身五十匁、水二合五勺  
右肉を細かに切り水を入れ、蓋をせずにとろ火で四時間以上煮詰め、漉して冷却して脂肪を掬ひ去つて、食鹽を加へて再び温めて供する。

四、白米入鳥肉スープ

上等鶏肉四百匁、水一升、白米二食匙、食鹽少量  
細かに切つた鶏肉を水からとろ火で肉の軟くなるまでよく煮て、食鹽を加へて更に三十分煮込み、別の鍋に漉して入れ、浮き上つた脂肪を掬ひ去り、再び火にかけて沸騰したらば軟かに煮た白米を入れ、尙少々煮込みて再び裏漉して供するのである。

凡てスープ類には極少量の胡椒を加へると味がよい。褥婦には胡椒類は禁物であるが、前に述べた理により極少量を許すもよからう。又場合によつては「バター」の少量を加へてもよい。  
又右の鶏肉スープのコップ一杯に、充分よくかき混ぜた鶏卵一個を加へて、一度沸騰させたのを漉して供してもよい。

五、卸蕪の吸物

煮出汁一合位、卵白一個、蕪數個、淺草海苔一枚の四分の一、鹽、醬油  
煮汁を鍋で煮立て、鹽で九分通り味をつけ、醬油で一吋色をつけ、卵白一個分を泡立て、其中に卸金で卸した蕪と海苔を加へ、尙よく泡立て、汁の中に入れて一二分の後腕に注ぎて供する。海苔は不消化ではあるが少量は差支ない。

六、魚肉又は貝類のあたり汁

あたり汁とは身を摺つて入れた味噌汁である。鱈、鰯、鰯、鰻、鱈、鱈、蛤、蜆、牡蠣等を身とした味噌汁を作つて、其身の全部を掬ひ上げてそれを摺鉢でよく摺り、再び前の汁に加へて煮立て、漉して供するのである。之は産褥に適當な滋養に富んだ食品である、場合によつては軟い野菜類を身として加へてもよい。



又肉のエキス、蛤エキス、牡蠣エキスを湯で適當に溶かして汁を作つてもよい。

### 第三 産褥用鶏卵料理

#### 一、酒入玉子牛乳

鶏卵一個、白砂糖四分の三食匙、食鹽少量、ブランデー一食匙、冷却牛乳五勺  
鶏卵を手早くかきませ泡を立て、砂糖と鹽とブランデーを加へてよく混ぜ、更にかきませ乍ら牛乳を少しづつ加へ、十分かき混ぜて後布にて漉して供する。  
寒い時には牛乳の代りに熱湯を加へてあついまゝで供してもよい。

#### 二、半熟鶏卵

先づ卵を割つて其卵白丈を茶碗に入れた儘湯煎にして、卵白がどろどろになつたならばよくかき混ぜた卵黄丈を其中へ加へ、更にバターと食鹽を入れてかき混ぜて供する。

或は半熟用の硬質陶器の壺の中へ鶏卵を割つて入れ、食鹽を加へて、ネチ蓋で密閉して、壺を熱湯中に五分程入れて出して、冷めぬ中に蓋をゆるめて壺のまゝ供するのもよい。

#### 三、半熟燻玉子

鶏卵を熱湯で八分間燻で、小さいコップの上に載せて匙及び食鹽を添へて供する。

此燻方では卵白が割合に硬くなるから、攝氏七十度位の湯、即ち指を入れて見て一寸なら耐へられるが永くは入れて居られぬと云ふ位の熱い湯に、三十分位浸して湯が冷めぬ様にしておくと、卵黄と卵白とが適當に半熟となる。

#### 四、半熟玉子白ソースかけ

鶏卵一個、「バター」一茶匙、熱き牛乳五勺、メリケン粉少量  
フライ鍋の中に「バター」を引き、熱い牛乳を入れて火にかけ、玉子を割り込み、玉子の片面が煮えたら裏返して、両面が半熟となつたら其玉子丈を皿に掬ひ取り、残りの牛乳の中へ「バター」とメリケン粉とを加へてドロドロにして、それを前の玉子の上からかけて供する。

#### 五、玉子入炙食パン

玉子一個、薄切り食パン一片、食鹽少量  
玉子の卵白をフォーク等でよく泡を立て、食鹽を加へてよくかき混ぜて置き、次にパンの周圍の硬い處を去り尙中央を圓く剝抜き、網で表裏を焼き、別に鍋の中にパンを被ふ程の水を入れ、少量の鹽を加へて煮て、前の焼いたパンを入れ、手早く引き上げ、皿に盛り、其パンの穴に卵黄を落し、其上に



泡立てた白味を載せ、之を暫く蒸し焼にして狐色に焼けたらば、其上からトマトケチャップ等をかけて出すのである。

其他肉汁入玉子焼、青豌豆入玉子焼、オートミール入玉子焼等も、産褥の初めに適當する。

六、オムレツ

卵白丈けを水又は牛乳と共によくかき混ぜて泡を立て、次に卵黄と合せて再びかき混ぜて、食鹽及び胡椒少々を加へ、バターを引いた鍋で焼くのであるが、産褥の第一週には獸肉は用ゐるぬがよいから、白魚其他軟き魚又は野菜を加へるがよい、牡蠣の剥身ならば中に少し加へてもよろしい。

オムレツをフワリと焼く秘傳は、前の様にかき混ぜて泡立てた鶏卵を焼けた鍋に注ぎながら、頗る手早く鍋の中でも十分にかき混ぜて、底の方丈けが薄ひ皮に焼けさうになつた時かき混ぜるのをやめて、半熟の中に二つに折るのである。

バターや胡椒を加へた玉子焼に味淋を加へては調和しない、日本式の玉子焼はだし汁にて玉子を溶き味淋を加へて胡椒油を引いた鍋で焼くのに限る。然し之は普通のオムレツより少しく消化が悪いと思はねばならぬ。

七、茶椀蒸やかき玉汁も産褥の初期に適當する食品だが、其中身は不消化物を入れず、麩や湯葉の

類を加へるがよい。

第四 産褥用野菜料理

一、青豆クリーム煮

青豆三勺、熱湯適量、バター一茶匙、メリケン粉一茶匙、砂糖少量、クリーム一食匙、食鹽、胡椒各少量

罐詰の青豆を水洗して熱湯と共に燻で、其湯を去り、バターを入れて五分間煮てメリケン粉を振り込み砂糖を混ぜてクリームと食鹽と胡椒とを加へて混ぜて煮る。軟い莢豌豆の有る時は青豆よりも尙ほ結構である。

二、菠薐草のバター煮

菠薐草五、六株、水適量、食鹽少量、バター半食匙、燻玉子の卵黄一個、菠薐草を軟に燻で細かに切り、バターと鹽を加へて煮て皿に盛り、燻玉子の黄味を裏漉しにしたものをかけて供する。

三、蕪のバター煮



第三編 褥婦及初生兒の取扱法

燕數個、水適量、食鹽少量、バター半食匙  
燕を一時間以上軟く燻で、水氣を切つて置き、次に鍋に湯と食鹽を入れ煮立ちたる中に前の燕を静かに入れて崩れぬ様に煮込み、バターを加へて成るべく温い中に供する。

四、燕の軟燻

大燕一個、味淋二勺、だし汁二合、醤油五勺、食鹽一茶匙  
前の様にして燻た燕とだし汁と味淋と醤油とにて崩れぬ様に煮込みて供するもよろしい。

或は又葛をあんかけにしてもよろしい。

燕又は大根の風呂吹とて、練り味噌をかけたのもよろしい。

五、豆腐のあんかけ

豆腐一個、味淋一勺、だし汁一合、醤油五勺、鹽半茶匙  
燻た豆腐を鉢に盛り葛をあんかけにして供する、之に生薑を加味すると調和がよいが褥婦には餘り多量を用ひてはならない。

六、玉子入豆腐料理

晒葱一摘み、生薑搾り汁少量、豆腐一個の三分の一、味淋、だし汁、醤油、葛粉

晒葱は葱を極薄く小口切として布巾に包み、水にてよく揉んで晒し、堅く搾つて取つておく。

豆腐を燻でて水を切り、茶碗に入れ、真中を匙で刳つて凹ませ、その中に卵黄をそっくり入れて器のまま、蒸籠の中に入れて二三分間蒸し、玉子が半熟となつた頃器ぐるみ取り出して、生薑の汁の入つたあんをかけ、晒葱一摘みを黄味にかゝらぬ様に撒き散して供する。

之は褥婦に適したなかく體裁のよい料理である。

七、百合の軟か羹

百合一個、醤油一勺、味淋一勺、燻玉子の黄味一個  
百合をよく燻でて味淋と醤油とにて味をつけ、よく練つて裏漉にして、燻玉子の黄味を裏漉にしたのをかけて供する。

第五 産褥用魚類料理

一、刺身類

鯛、鯉等の刺身は五六日頃より食べてもよろしい。

49 二、蒸し炙き魚

第三章 褥婦全身に關する事項



蒸した魚肉適量、バター二茶匙、メリケン粉一茶匙、牛乳三食匙、食鹽少量、パン粉一食匙

鯛又は鯛の類を蒸籠で蒸して細かにむしり、「バター」、メリケン粉、牛乳、鹽でよく煮上げ、「バター」を塗つた炙き皿に入れ、「バター」とパン粉とを混ぜたものを被け、其儘「てんぴ」で狐焼にして供する。

三、鯛の雲丹焼き

鯛を鹽水に二時間浸して軟かにして水を切り、串で炙き、雲丹と卵黄と味淋とを混ぜたものを刷毛で塗つて又炙く。

第六 肉類料理

肉類は産褥第二週以後に於て供するがよい。

先づ鶏肉のそぼろ、「ユキール」、挽き肉のきやべつ巻等から始めて普通の料理に移るのである。

▲以上の様な料理の外に尙簡單の食品をも心得て居らないと困る事がある。例へば刺り鯉、鯛でんぶ、種々の煮味噌、梅干鹽、紫蘇干鹽、ゆかり、しらが昆布の早汁、海苔佃煮、あみ佃煮、いんげんの煮豆等は、東京市内等では何時でも店で買ふ事が出来るから便利である。右の中には不消化のもの

もあるが通常多量を用ゆるものでないから差支ない。

▲産褥には乳汁の分泌を促す爲めに成るべく汁物を多く供するがよいと云ふたが、同じものでは飲みあさるから、それには味噌汁、諸種のあたり汁、あんかけ汁、かき玉子の清し汁、茶碗蒸、諸種のスープ、うしほ、椀盛、茶碗盛等色々に變へる事が必要である。然し乳腺のあまり張り過ぎる場合には飲料を少なくしなければならぬ。

▲以上の料理の中で古人の禁じたものもあるが、差支ないと思ふから態と入れておいたのである。

▲南瓜、甘藷、馬鈴薯、蠶豆等は風氣を醸す點に於てはよくないけれども、婦人の多く好むものであるから只少量を供するのは差支ないと思ふ。

▲粥は主に第一週、米飯は第二週から供するのであるが、第二週の準備として一週の終りに一日一回又は二回軟い米飯を與へるがよい。

▲以上の料理は凡その見當を示したに過ぎないから、之を標準として種々の材料に就いて應用して見れば、様々の料理を供し得らるゝであらう。



講 義

(教科書第四卷二八—三五頁)

第六節 尿 利

分娩後六時間も経つたなら、尿意の有無に拘はらず、兎も角も便器を與へて一回の排尿をさせて見るがよい。

膀胱部の壓迫、温療法、微温湯の灌注等で效が無い時には、止むを得ず靜かに半身を起して坐位を取らせて排尿させるのであるが、醫師の監督中の褥婦であるなら、なるべく醫師の許可を得て後にさせた方がよろしい。産褥の第一週では此排尿の場合以外には坐居を取らせぬがよい。半身を起して排尿するのは時には四つ這ひになつた方がよいこともある。

「カテーテル」の使用は、假令消毒を嚴重にしても數回重なると、遂に膀胱加答兒を惹起す機會をつくるから、なるべく使用しない様に心懸けねばならない。「ゴム」製「カテーテル」は十分に消毒しても、挿入の際に指等で汚す憂があるから、産褥時には成るべく用ぬるがよろしい。分娩中であつて

第八節 精神—安眠

一、妊娠中の浮腫の多くは産後日を追ふて失ふべきものであるが、若し其度を増すか或は新に之を生じた時は、必ず醫師の診察を受けしめなければならぬ。  
二、發汗中に急に身體を冷却すと感冒を引かす虞がある。  
汗は乾いた「タオル」等で以て手早く拭ふて、若し衣服が濕つて居たならば更衣させなければならぬ。更衣の方法は第七卷で委しく述べよう。

第七節 皮膚—褥汗

硬い「カテーテル」の使用出来ないときには、「ゴム」製の「カテーテル」を使用しなければならぬ。この「カテーテル」使用も醫師の監督中の褥婦であるなら、なるべくは一應醫師の許可を得て後にする方がよい。  
尿管は婦人用尿管と云ふて硝子鑷を横にした様な形で口の潤いものを用ふるのである。勿論普通の挿入便器を以て代用してもよろしい。



一、産婆は日々褥婦の氣分の如何を尋ね、苦痛の有無を問ひ、且つよく安眠し得たか否かを糺さなければならぬ。

哀羞の哀は悲しい事、羞は恥しい事である。強い精神感動の爲めに産褥時に精神病を起す事があるから注意しなければならぬ。

二、後陣痛の強い時に氷嚢を貼ると却つて收縮を促して痛みを増す事もあるから、先づ濕性罨法を試みて効のない時に氷嚢を用ゐたらよからう。濕性罨法のこととは第七卷に詳しく説明してある。

第九節 褥婦の攝生法

妊婦攝生法を動靜、清潔、衣、食、住に分けて述べたが、産褥時の清潔と食は既に済んだから動靜と衣、住とを主に述べよう。

一 動靜

身體を安靜にする事は褥婦に取つて最も大切な事である。若し安靜を守らないで、早く坐つたり或は立ちあがつたりすると。

(一)『出血』の危険もあるし、或は『熱』を起したり。  
(二)『子宮の下垂』と云ふて子宮の位置が下に降つたり、或は『子宮脱出』と云ふて腔口から外に子宮が出たり、或は『腔壁が外部に翻轉』して外に出たりして、其結果種々の餘病を惹起す危険もある。

(三)或は『血栓』と云ふて血管が凝血で栓をせらるゝ危険もあるし、又『エンボリ』と云ふて凝血や空氣等が血管内に這入り込んで、他の所へ流れて行つて大切な場所を詰めて、今まで何とも無かつた人が立所に死んで仕舞ふ様な事がある。

然るに醫學的知識の無い素人の常として、産後の経過が良く疲勞も無く氣分もよい時に、褥婦自分の考でか或は家族の勧め等により、早く床を離れ、其爲めに永く病苦に悩んだり、或は不測の危害を招く事も尠くないから、産婆は此點について素人に判る様に親切に叮嚀に教へてやらなければならぬ。交互に側臥を取らせる必要は、

- (1) 子宮後屈の豫防の外に、  
(2) 褥瘡(とこずれ)の豫防である。

△教科書の動靜の條下を讀みながら左の表を參考するとよい。







乳房や乳頭も不潔にならぬ様に常に注意せねばならぬ。

### 三 衣類

腹帯は最初二三週間丈だけでもよいが可成は産褥の全経過中(六―八週)用ふる方が腹壁の弛緩や直腹筋の離開を恢復せしめるのに都合がよい。腹壁が弛緩してゐると懸垂腹といふて腹か前で下に垂れる様になる。

### 四 食物

昨日述べた通りである。

### 五 褥室

昔は月經を穢と考へたと同様に、分娩産褥の如き有様をお日様(太陽)に御覽に入れるのは勿體無いとして、晝でも尙ほ態々戸を閉めたりしたものである。之は創傷の治癒を遅くし、産後の日立を悪くするのみでなく、室内の不潔物も目に立たないし、空氣の流通をも不良とするから、斯様な迷信に従は

ないがよい。

この褥室の事は第三卷産室の條下と同時に記憶するがよい。

### 書 取

「かゆ」「たひ」「かれい」「ひらめ」「けいらん」「あんあんばふ」「しんぐ」「きどあいしう」「こうふん」「りじよく」「かんとく」「どくだん」「らんよう」「くわんくわつ」「ゆるやか」「くわいふく」「しよくせつ」「ひじよく」「かうくわん」「かんせい」

### 試験問體

- 褥婦外陰部(外生殖器)ノ處置 (宮崎、大正十五、四) ○褥婦ニ就テ日日注意スベキ事項 (大阪、大正四、九)
- 褥婦外陰部ノ清潔法 (大阪、大正十五、十) ○正規褥婦取扱注意事項 (千葉、大正三、十)
- 褥婦外陰部ノ處置法ヲ記セ (栃木、大正十三、四) ○同上 (若手、大正十五、四)
- 褥婦生殖器ノ處置 (栃木、大正九、四) ○褥婦ノ看護上注意事項 (山口、大正七、四)
- 褥婦ノ乳房、子宮及惡露ノ検査法ヲ記セ (大分、昭和二、五) ○同上 (茨城、大正十三、十)
- 乳房攝生上注意スベキ諸點ヲ問フ (熊本、大正十、四) ○褥婦ニ就テ産婆ノ注意スベキ事項 (石川、大正十五、十)
- 褥婦ニ對スル産婆ノ要務 (静岡、大正七、四) ○同上 (大阪、大正七、四)
- 褥婦診察法ヲ記セ (山梨、大正六、十) ○同上 (埼玉、大正六、四)
- 褥婦診察時ニ於ケル注意事項ヲ問フ(大阪、大正十五、十) ○同上 (埼玉、大正七、十)
- 同上 (大阪、大正十四、十)



第三編 褥婦及初生兒の取扱法

- 同上 (山梨、大正十五、四)
- 妊婦褥婦ヲ見舞ヒタル時ノ注意事項 (埼玉、大正六、十)
- 産婆ノ褥婦及初生兒ヲ廻診セル時注意スベキ事項 (和歌山、大正五、四)
- 産褥中褥婦ニ就テ重要ナル事項 (岡山、大正七、四)
- 産褥時ニ注意スベキ諸件 (埼玉、大正五、十)
- 同上 (三重、昭和二、三)
- 正規産褥中産婆ノ最モ注意スベキ事項(栃木、大正七、四)
- 同上 (宮城、大正十二、十)
- 産褥中注意ヲ要スベキ要項ヲ擧ゲヨ(三重、大正十五、三)
- 褥婦取扱法(又ハ處置) (東京、大正九、四)
- 同上 (東京、大正五、四)
- 同上 (茨城、大正十二、十)
- 同上 (石川、大正十四、四)
- 正規産褥ノ取扱法 (東京、大正十四、四)
- 産褥ノ處置及看護法 (東京、大正六、十)
- 同上 (茨城、大正七、十)
- 同上 (群馬、大正五、五)
- 褥婦ノ看護 (山梨、大正七、五)
- 同上 (神奈川、大正十一、四)
- 同上 (千葉、大正十四、十)
- 同上 (島根、大正十五、十)
- 同上 (山口、昭和二、四)
- 正規産褥ノ看護法ヲ記セ (青森、大正十五、十)
- 褥婦ノ攝生及看護法 (愛知、大正五、十)
- 褥婦看護ノ際ニ惡露、體温、子宮收縮ノ狀況等ヲ精査スルコトノ重要ナル理由ヲ説明セヨ (山梨、大正十三、十)
- 褥婦ノ攝生法 (兵庫、大正四、四)
- 同上 (埼玉、大正九、四)
- 同上 (東京、大正七、四)
- 同上 (秋田、大正十三、十)
- 同上 (山形、大正十四、四)
- 同上 (長野、大正十四、四)
- 同上 (栃木、大正十四、十)
- 同上 (群馬、大正十四、十)
- 同上 (埼玉、昭和二、五)
- 産褥ノ攝生法ニ就テ記セ (宮崎、大正十五、十)
- 同上 (宮城、昭和二、五)
- 褥婦看護法(攝生法)ノ要領ヲ記セ (群馬、大正十二、十)
- 褥婦一般ノ攝生法及授乳法 (茨城、大正六、十)
- 産褥ニ於ケル排尿障害 (滋賀、大正十四、四)
- 同上 (福島、大正十二、十)
- 褥婦尿閉ニ就テ (東京、大正十三、十)

第三章 褥婦全身に關する事項

- 同上 (鹿兒島、昭和二、四)
- 妊娠分娩及産褥ニ於ケル尿閉ニ就テ説明セヨ (愛知、昭和二、五)
- 褥婦ノ排尿法ヲ問フ (栃木、大正七、四)
- 産褥婦ニ於ケル泌尿ノ障碍及ビ處置(千葉、大正十三、十)
- 産褥時ニ於ケル排尿障碍ノ原因及處置 (熊本、大正十五、十)
- 褥婦ノ起坐及離褥時如何 (愛媛、大正十五、四)
- 産褥ヲ去リ得ベキ條件 (新潟、大正十四、四)
- 褥婦ノ産褥ヲ去リ得ベキ時期ヲ記セ (栃木、大正二、十)
- 同上 (東京、大正十一、四)
- 同上 (福島、大正十四、四)
- 同上 (熊本、大正十五、四)
- 褥婦ノ産褥及産室ヲ去リ得ベキ時期並ニ此際注意スベキ事アラバ記セ (栃木、大正六、十)
- 正規褥婦ノ適當ナル離床期ト其理由ヲ説明セヨ (埼玉、大正十五、十)
- 早期離床ノ可否 (大阪、大正十五、四)
- 褥婦ノ早期離床ハ如何ナル害アリヤ(千葉、大正十五、四)
- 褥婦ノ早期離床ノ利害ヲ論ゼヨ (和歌山、大正十五、十)
- 早期離床ノ可否ヲ決スル標準ヲ問フ(福井、大正十五、四)
- 褥婦入浴ノ時期 (群馬、大正十三、十)
- 同上 (和歌山、昭和二、四)
- 正規産褥ニ於テ離床沐浴及讀書ハ如何ナル時期ニ之ヲ許スベキカ (山梨、大正十四、十)
- 褥婦ニニ就キ左ノ事項ヲ記セ (和歌山、昭和二、四)
- (イ)惡露ノ消失スル時期 (群馬、大正十三、十)
- (ロ)子宮全ク復舊スル時期 (岡山、大正十五、十)
- (ハ)乳汁分泌ノ始ル時期 (群馬、大正十三、十)
- (ニ)仰臥セシムル時期 (群馬、大正十三、十)
- 身體運動及授乳ノ産褥經過ニ及ボス利害ヲ説明セヨ (岡山、大正十五、十)
- 左ノ事項ニ就テ記セ (群馬、大正十三、四)
- (一)褥婦ノ入浴ニ差支ヘナキ時期 (群馬、大正十三、四)
- (二)褥婦ノ離褥スベキ時期 (高田、大正十四、四)
- (三)褥婦ニ常食ヲ與ヘテ差支ヘナキ時期 (埼玉、大正三、九)
- 褥婦ノ食餌 (高田、大正十四、四)
- 褥婦ノ飲食物ニツイテ記セ (埼玉、大正三、九)
- 産褥ニ於テ食物、衣服及惡露ニ對スル注意ヲ記セ (京畿道、大正七、六)



君が家の根さしや千代にかたむらん  
 あひ出し松の二葉なからに  
 二葉より千代の根さしは見えにけり  
 はえゆく庭の松の緑子

月 日 ( 曜日 )

### 復習

(二) 褥婦に離褥、入浴及び外出を許すべき時期は？

### 講義

(教科書第四卷三五—四一頁)

### 第四章 初生児取扱法

取扱上最も大切な事は……

- (1) 一般健康状態に注意する外に、
- (2) 清潔、
- (3) 温保、
- (4) 營養の四つである。

#### 第一節 一般健康状態の注意

#### 一、體重

體重を計るのに前の日は授乳の直ぐ後で計つて、次の日に授乳の直ぐ前即ち腹の空いた時殊に排便の後には計ると、實際は目方が増して居ても減つた様に見える事があるから、いつも授乳後一定の時間の後に計るがよい。通常沐浴の直ぐ前に計るのが便利である。沐浴は授乳後二時間経つた後で次の授乳の一時間以上前が一番よろし。

#### 二、體温

湯婆が餘り近づけてあると、其爲めに兒の體温が昇つて正しい體温を計り得ない事があるから、注意



しなければならぬ。

### 三、脈搏

初生児の脈搏は極めて不安定なもので、啼いたり強く運動したりした後には、百四十一百六十にも數が増すのである。それ故脈數が早いからとて直ちに異常とする譯にはいかぬ。暫時安靜になるのを待つて見て脈數が減するやうなら異常はないと見てよい。

### 四、呼吸

呼吸數は大人なら胸に手をあて、數へるのだが、初生児では通常目で見て數へる事が出来る。

### 五、便通

襁褓の内面には薄くて柔かな白い紙を當て、おいてもよろしい。性質では胎糞と普通の糞便との區別の外に、色、硬さ及び粘液、顆粒、泡沫等の混じてゐるか否かを見なければならぬ。色は普通の黄色でなくて、綠色又は帶赤黑色等であつたならば異常と見なければならぬ。又回數及一回の量にも注

意しなければならぬ。

### 六、尿利

尿が襁褓を濃く黄色に染める時は病的の黄疸であるかも知れない。又襁褓の中に赤煉瓦の粉の様な赤褐色の粉を混じて居る事もあるが、それは前に述べた通り心配するに及ばない。

### 七、皮膚—臍帶

寒冷の時には殊に早産児は皮膚が硬くなる鞏硬症を起して死ぬるかも知れないから注意しなければならぬ。鞏硬症の詳細は第七卷で述べよう。臍帶斷片の處置は前に分娩取扱法の處に述べておいたからそこを見るとよい。

### 八、睡眠—啼泣

初生児のみでなく次に乳児の啼泣に就て述べよう。乳児は痛い、痒い、苦しい、冷たい、熱い、寒い、氣分が悪い等を云ひ表はす事が出来ないで只啼く



ばかりである。依て啼き聲で其不快の原因を探る事が必要である。

(一) 普通の啼き聲で永續的に啼くのは、空腹又は口渴、襦袢が濕つた時、蚤に螫され又は濕疹の爲痒い時、湯婆が熱過ぎる時等である。

(二) 氣難しく哀聲で泣くのは、何處かに病氣があつて違和(氣分の優れぬ)を感じざる爲である。

(三) 平常と異つた妙な聲で大きく啼いて居たのが、急に聲を立てずに低い聲でのみ啼き、息氣を吸ふ時に喘鳴(ゼロク)を發し、或は呻吟(うめき)を伴ふのは、乳兒脚氣の重いのである。脚氣の時は聲の

暖れる事もあり甚いのは全く無聲になることがある。

凡て呻吟を伴ふのは脚氣でなくとも重症であると思はねばならぬ。

(四) 瞬きをして光を避ける様にして泣くのは或は頭痛のするのかも知れぬ。

(五) 激しい叫び聲で泣くのは、耳が痛い或は衣服等に過つて針が残つてあつてそれで刺す場合等である。

(六) 鼻聲で啼くのは、鼻加答兒、鼻咽腔加答兒等である。

(七) 暖れ聲で泣くのは、高聲で泣いた後、或は咽喉に故障のある時、脚氣等である。

(八) 短かく押し附ける様に泣き、殊に咳嗽を伴ふのは氣管支炎又は肺炎である。

第二節 清潔

- (九) 氣難しく泣いて食物を口に入れると一層泣き出すのは、口腔に何か故障があるのかも知れぬ。
- (十) 乳を嘔み込む時に啼くのは、咽頭に痛みがあるものであらう。
- (一) 足を引き上げて發作的に啼くのは、腹痛か或は腹の脹る爲である。
- (二) 睡眠中突然啼き出しあとすやくと眠れるのは、單に物に驚かされた爲である。
- 以上述べた状態に従つて凡その見當をつけて、其原因を探し其れ相應の手當を施さねばならない。然るに消化器病の爲泣いたのを、只啼いたからとてやたらに乳を吞ませると、益々其病氣を重くする事もある。或は呼吸器病のあるのを只啼いたからとて屋外に連れ出して、病氣を重くすることもある。或は腦に病のあるのを無暗に抱き上げて揺つたり叩いたりして尙ほ悪しくすることもある。

九、乳汁分泌

初生児に乳汁が分泌するのを、止めようと思つて之を搾り出すと、分泌が止らないで遂に乳腺を化膿させる事があるから、成るべく刺戟を與へない様にせねばならない。



沐浴の方法は分婉取扱法で述べたからそこをよく見るがよい。試験答案にはそれも加へねばならぬ。初生兒沐浴の利點。

- (1) 身體を清潔にし、濕疹を豫防する。
  - (2) 血液循環と呼吸を旺にし、發育を助ける。
- 初生兒沐浴の缺點。

臍帶斷片の乾燥を妨ぐることがある（然しこれは注意して取扱へば憂ふるに足らない）

【亞鉛華】は酸化亞鉛とも云ひ白色の粉である。【滑石末】は滑石の粉末で「タルクム」とも云ふて居る。【澱粉】は精製したる葛粉と思へばよい。近頃は小兒には澱粉はよくないといふてあまり用ゐられなくなつた。【咳嗽】は「せき」。

臍帶殘片の乾きが悪い時は、酒精を濕したガーゼで三十分位濕布をするとよく乾く、臍輪が濕つてゐるなら「アイロール」か「デルマトール」を撒布し、赤くたゞれてゐるなら沐浴を休んで醫師に見て貰ふがよい。

乳兒の爪は深爪を取ると直さに血が出るから注意しなければならぬ。

### 第三節 温保

昔から寒暑に拘はらず小兒に厚着させ過る事があるが、餘り厚過ぎると汗疹を生じたり風邪を引かせたりする憂があるのみでなく、呼吸運動や四肢の運動を妨げて小兒の發育を害する事がある。

と云ふて餘り薄いと風邪をひかす虞があるから、其程のよい所を選ばなければならぬ、それには大人に適當と思ふ厚さより少し厚くすればよい。又例令薄くとも窮屈に包むのがよくない。

衣服や襁褓のことは第三卷分婉取扱法で述べておいたから復た見るがよい。襁褓の外を防水材料で包むのは水分の蒸發を妨げて糜爛や濕疹を起すことがあるからよくない。下肢の運動を自由にする様に襁褓をあてるには、四角の布を三角になる様に二つ折りとして其長い邊を上に向けて腰から腹を包み、下に向つてゐる角を後から前へ廻はして腹の前で安全針で留めればよい。尤も其内部には柔かい

股挟みの布をはさみ、外は一枚のフランネルで軽く包んでおくのがよい。

早産兒は特別温保に注意しなければならぬものであるから、後に早産兒の取扱法にて委しく述べよう。

温槽の構造には色々あるが最も簡單なのは「トタン」板製の二重壁の箱の中に小兒を入れて其壁間に



第三編 褥婦及初生児の取扱法

温湯を充して箱の中の空気を三十二度位に暖めておくのである。

△初生児取扱法の中營養法は初生児のみでなく小兒營養法として明日述べよう。

書 取

「せんじやく」「きさい」「ふうたい」「きやうほ」「むつき」「わうだん」「すゐみん」「ていきふ」「さくしゆつ」「しぼり出す」「あえんくわくわつせきまつ」「でんぶん」「がいそう」「そる」「毛を」「ぞくふう」「くわんき」「をんさう」

類 字

利尿。下痢。排出。狭窄。挾壓。

試験問題

- ◎初生児取扱法 (東京、大正四、十)
- ◎同上 (東京、大正五、四)
- ◎同上 (東京、大正六、四)
- ◎初生児看護法 (山梨、大正七、五)
- ◎同上 (茨城、大正十三、十)
- ◎同上 (栃木、大正十四、十)
- ◎同上 (石川、昭和二、五)
- ◎同上及ビ正規産褥子宮ノ組織的變化(京都、大正十五、四)
- ◎初産兒哺育上注意スベキ要點ハ何デスカ (東京、大正十三、四)
- ◎初生児臍部ノ處置如何 (茨城、大正五、十)
- ◎初生児ノ身體清潔保持上ノ注意 (兵庫、大正六、四)
- ◎初生児沐浴ニツイテ (慶尙北道、大正六、十)
- ◎同上 (栃木、大正十一、四)
- ◎初生児沐浴ニツイテノ注意 (埼玉、大正七、十)
- ◎正規ノ入浴及其取扱法 (福島、大正七、十)

講 義

第四章 初生児取扱法

- (一) 臍帯は何日頃迄用ふべきか?
- (二) 初生児沐浴を差止むべき場合は?

月 日 ( 曜日 )

美はしきその生聲は高き名を  
あくるはしめと先づ知られけり

- ◎初生児沐浴法 (長野、大正九、四)
- ◎同上 (福島、大正十一、四)
- ◎臍帯脱落前ニ於テ初生児ニ沐浴ヲ禁ズベキ場合 (茨城、昭和二、五)
- ◎初生児ノ睡眠及啼泣ニ就テ注意スベキ事項如何 (岩手、大正十四、四)
- ◎分娩後約二週間前後マデニ於ケル初生児ノ状態及産婆ノ取ルベキ處置及ビ注意ヲ問フ (山梨、大正十三、十)
- ◎褥婦及ビ新生児ニ就テ注意スベキ要點ヲ記セ (岐阜、昭和二、五)



第四節 乳児營養法

從來の習慣から云ふと、産婆の取扱ふのは主として初生児時代だけだが、將來の産婆は尙ほそれ以上に小兒保健に關し、素人と醫者との中間に立つて、適當の相談相手ともならなければならぬから、少くも乳児時代の營養法を心得てゐなければならぬのである。

甲 自然營養法

第一 自然營養の利益

一、乳児に對する利益

(一) 乳児は、(1) 乳児に對し最も消化し易いもので、回数さへ注意すれば毎回の分量を計る必要もなく、(2) 一々温めたり、態々砂糖を加ふるにも及ばず、(3) 腐敗したか否うかの心配もなく消毒の要もない。論より證據、人乳で養はれてゐる乳児に消化不良等の病氣を起す事は少なく、死亡率は人工營養児に比して遙かに少ないのである。一體人間の死亡數は、一歳未満所謂哺乳乳児に於て最も多く、實に全死亡數の四分の一乃至五分の一に當つて居る。そして其内の大多數は消化器病で斃れるので、就中其八

二、母體の利益

割九割は皆人工營養を受けた小兒である。  
(二) 母乳は常に幼時の發育に相當して適當に分泌するもので、生後二三日間尙ほ初生児の消化力が整はない間は、最も消化し易い初乳を適量に分泌し、其後哺乳するに従つて漸次に分泌を増して、八ヶ月頃になつて小兒が他の食品を攝り得ると分泌も不足となつて來るのである。之に反し、牛乳は小兒の發育につれ分量を綿密に注意しなければならぬ。  
(三) 母體の内に或種の傳染病に對抗し得る『抗體』と云ふものを有つて居るときは、其母乳を飲んだ小兒にもその『抗體』が移つて來て、其れ丈の抵抗力を得る譯である。又人乳の内には「アレキシン」と云ふて細菌に抵抗作用をなすものがある。それがやはり之を飲んだ小兒の血液の方へ移つて來ることが出来る。  
(四) 人乳の内には蛋白質、脂肪、砂糖を消化し得る『醗酵素』と云ふものを含んで居るから、其儘に飲むと謂はゞ消化薬も一緒に飲む譯である。牛乳の中にも「アレキシン」や醗酵素を含んで居るが、之を消毒すると之等のもの及びビタミンも破壊されて無効となるのである。然ればとて消毒をしなければ他の病毒を含んで居るから危険である。



(1) 全身の方面、(2) 生殖器方面共に母體の産褥経過をよくするものである。  
 (自然營養と人工營養との利害と云ふ問題に對しては、中央に横線を引いて、上段に以上の自然營養の利益を述べ、下段へ人工營養の害を上段各項に對比して反對の事を記せばよい)

## 第二 哺乳の開始

一、分娩後八時間や十時間は授乳しない方がよい。母體には分娩の疲勞に對し休養を與へねばならぬ。生児は初湯の後に通常すやくと眠るもので、若し其間に眼を醒して啼泣しても襁褓を更へてやると再び眠に入るのである。

二、初乳の中には割に多く鹽類があるから通利の效があり、消化し易い蛋白質が割に多いから初生児最初の營養物として最もよいのである。初生児の口に最初に入るものは人乳以外の營養物は危険であると思つてもよい。已むを得ない時は砂糖湯を與ふるが、これも永く續けると胃を害するから、少し永く與ふるには五千—一萬倍の「サッカリン」水がよい。一回の量は茶匙 二、三杯位にする。初生児の初めの數日間は營養物を與へなくとも生命に關する危険はないが、水分の不足は健康に害があるから、初乳の殆どない時は適當の水分を與へなければならぬのである。(水分が不足であると、渴

熱を出したり、尿が少なくなつて腎臓を刺戟したり、腸の内容物の水分が少ないため腸を悪くしたりすることがある。)

## 第三 哺乳の回数及量

一日に於ける哺乳の回数と間隔の時間とを一定して、秩序整然たる良習慣を養ふ事は、小児の發育に極めて必要であつて、若し不規則に流れると、小児の消化器の休養の時がなく、消化障礙等を起すものである。其病氣の爲めに啼泣するのを飢の爲と誤解して、益々頻繁に乳を與へると、病氣は益々重くなつて遂に取返しつかぬ事を惹起す事がある。それ故晝間は哺乳の時間が來れば假令睡眠中であつても醒して哺乳させ、夜間は小児が啼泣さへしなければ時間が過ぎてもなる丈け乳を與へない様に延すのがよい。三ヶ月迄は夜間の一回分をぬき、其の後は夜中は與へないと云ふのは、夜の暗い間與へぬといふのでなく、母の睡眠時間中例へば夜十時頃から朝六時頃までの間に一回も與へないで、母子兩方に對して十分の休養を與へるのである。

哺乳力の弱い小兒例へば二千瓦以下の小兒等では、例へば一時間毎に母乳一茶匙宛を與へなければならぬ様な事もある。それ等の時間や分量は勿論醫師の指圖によつてしなければならぬ。



一回の哺乳量を計るには、哺乳前後の體重を計つて其差を見ればよいのだが、毎回かくの如くして計る事は煩はしくて實行し難い事である。

一回哺乳時間の十五分を三分すると、初めの五分間で全量の約三分の二を飲み、次の五分間で殆ど三分の一を飲み、終りの五分間に飲むのは極めて微量(十分の一)であると云ふ事である。乳児が永い間哺乳運動を續けてゐるのは、或は乳汁分泌が少いのではないかと疑つて見なければならぬ。

### 第四 授乳時の位置

【斜側臥】仰臥と側臥との中間の半側臥を取り、下の方の乳房で授乳させるのである。

餘り早くから坐位を取つて授乳させると子宮の下垂脱出或は出血を起す憂がある。夜中殊に寒冷の季節には、寒いのと眠いのとの爲めに不精をして、臥位の儘で乳を飲せ、乳房の重みで生児の鼻孔を塞いで窒息させたのも知らないで、醒めて見て小児の身體の冷くなつてゐるのに驚いて騒ぐ事がある。大いに戒めなければならぬ事である。

哺乳後に小児を安臥させても時には乳汁を吐く事があるから、哺乳後は常に靜かに側臥位を取らせ

て乳汁を萬一吐いても氣道に入らない様になければならない。

吐乳は飲み過ぎ又は便意の爲めの腹壓其他輕い動搖によつても起る事もあるが、其他『消化不良症』や『脚氣』の爲であるかも知れないから油斷をしてはならない。

### 第五 哺乳の障礙及禁忌

#### 一、哺乳障礙(哺乳不能)

之は「哺乳してならない」と云ふのではない、「したいは山々であつてもする事が出来な

い」のである。即ち乳頭が平若しくは引込んで居ては哺乳出来ないのである。然しそれは乳頭を刺戟して勃起させて後に試めさねばならないのである。

【皰裂】は「ひび」である。小さい「ひび」でも痛くてなか／＼飲ませられない事がある。【兔唇】は三ツ口で、兔唇は哺乳の際に乳房を以て其間隙を塞げば哺乳せしめ得る事がある。【口蓋破裂】は上口蓋まで裂けてゐるのを云ふのである。【先天性】生れつきと云ふ事であつて、鼻が通らな

ければ乳を飲む事が出来ないのは無論である。其他初生児の腦等に障礙があつて哺乳し得ない事がある。



▲處置。(1)乳頭の隆起が不足で哺乳に適せないと思ふものは、妊娠中から既に之を摘んで延ばす様にし、乳頭の皮膚の弱いものは毎日冷水又は酒精で摩擦して強壯にして置かねばならない。

(2)吸乳器にはゴム乳頭の二つあるのと二つあるのがある。兩頭の方は一つの乳頭で母が吸ひ出して其出た乳を他の乳頭で小児が吸ふのである。此方は小児の哺乳力の弱い場合に用ふるにも適して居る。

(3)ゴム球附搾乳器は乳汁分泌の多い時や小児の哺乳力の不十分の爲めに乳汁が滯つた時に搾り出すのにも用ふる。尤も其様な場合には搾乳器の無い時は他の小児に飲ませてもよい。

授乳を廢した爲めに乳の滯つた時に絶えず搾乳器で搾り出すと、益々乳汁が分泌して却つて其止りが遅いのである。斯様な場合には成るべく搾らずに、氷罨法又は冷罨法を施して水分を成可く飲まず、便通を整へると、自然に分泌が止まるのである。

### 二、哺乳禁忌(哺乳不可)

之は哺乳させれば出来るが、「してはならぬ」のを云ふ、即ち故意に廢乳せしめる必要があるのである。

#### (一)授乳婦に害ある場合

母が結核でも輕症の時も哺乳させても、母に害は少ないが、重い時は哺乳によつて營養を著しく衰へさせるものである。

骨軟化症と云ふ病氣に罹つた時も、營養を甚だしく必要とするから哺乳させてはならない。

小児のみに微毒がある時に、微毒のない乳母の乳を飲ませては、乳母に微毒を傳染させる虞があるから德義上之を禁せねばならぬ。

#### (二)小児に害ある場合

急性傳染病は小児に必しも傳染しなくとも、高熱のある場合の乳を吞ませては害がある。

慢性傳染病は知らぬ間に小児に傳染する危険がある。然し兩親に微毒がある時は、寧ろ其母の乳を飲ませるがよい。前の理由により乳母の乳は哺乳せしめられないし、又微毒兒は人工營養では中々發育し難いからである。殊に其母が妊娠後に初めて微毒に感染して初生児が健康の時、兒は既に微毒に罹らぬ性質を母體より享けて居ると云ふ説もあるから、何れにしても母に微毒のある時は其母の乳を飲ませるのがよい。

結核は授乳婦の營養を悪くするのみでなく、小児に傳染の虞がある。つまり母子兩方に害ある場合なのである。



脚氣であるからとて凡て哺乳を禁ずる譯でない。人工營養では却てよくないことがあるから、小児に著しい脚氣の症状のない限りは、細心の注意の下に飲ませる事がある。

【乳汁漏】乳汁が過量に出て、哺乳しない時にも漏れて出るもので、乳汁の性質が悪いから小児に害になる。

書 取

「こりよ」「しばらく」「はるか」「しげき」「きしやく」「へらじゆん」「はらいん」「しやうがら」「さんき」「へんぺら」「かんぼつ」「びらん」「くんれつ」としん」「びからへいそく」「きやうせき」「さじ」「けつかく」「ばいどく」「はいえん」「らいびやう」「かつけ」「てんかん」「にゆうじふろう」

類 字

煉乳、煉瓦、熟練。死亡率、卒業、稀釋、通譯。飽飲、細胞。窒息、空氣、室内。扁平、偏在。糜爛、乳糜、靡草。激痛、劇藥。刺戟、兔唇、免疫。閉塞、寒氣。

月 日 ( 曜日 )

講 義

(教科書第四卷四九—五五頁)

第六 乳母の豫選

【豫選】したえらび。

母乳を飲まし得ないか、或は飲ましてならない時か、或は母乳の甚不足の時は、人工營養をやる前に先づ乳母を求めなければならぬ。何故なれば乳母の乳は母乳には劣るけれども、人工營養に比して遙かに勝るからである。

然るに乳母又は其媒介者の言は屢々信し難くて適當の乳母を得る事は甚だ困難なものであるから、産婆は大體の良否を下選びして、最後の決定は醫師に頼まなければならぬ。

一 健康

産婆には其健全が十分には判らないが、素人見に診て身體強壯の外観を有するものが宜い。齟齬のあまり多い人は乳汁の出が悪いといふことである。眼疾はトラホーム等がいけないので近眼などは差



支なり。

二 性質

田舎に育つた人の方が性質が素朴で且身體が強壯で都合がよい。

三 年齢及分娩

年齢は二十歳—三十五歳を適當とすると云たが、他の點が適當して居れば幾分の相違は忍ばなければならぬ。

乳母と生母の分娩の時期の差が六ヶ月位まではよいと云ふが、無論乳母が分娩後引續き哺乳をして居つた場合でなければならぬ。

四 乳房及乳汁

乳腺の發育の佳良のものは、乳腺が結節(コブ)の様又は索條(ひもの様)に腫大してゐるのを觸れ得る。

昔は大名が乳人を採用するのに、乳の條が十二本も進り出なければいけないと云ふたが、然しそんなのはなか／＼少ない。

第七 授乳婦人の攝生法

妊婦攝生法や褥婦の攝生法では、先づ動靜と清潔を話し次に衣食住について述べたが、之も其順によつて講義しやう。只こゝでは住の代りに乳汁の分泌を多量ならしめる法が述べてある。

一、動靜産褥 中には勿論産褥中の攝生法によつて動作しなければならぬ。

二、清潔乳児の口腔粘膜は極弱いから餘り頻繁に拭ふと誤つて傷付けて病氣を起したり、又は口中の自淨作用を却つて妨げる事があるし、殊に哺乳の後に拭ふと吐乳させる憂もあるから、哺乳の前後には只口腔が清潔であるか否かを注意すればよろしい。若し白いものがついて居た時はそれを拭取り、拭いてもそれが取れないならば驚口瘡と云ふ病氣であるかも知れないから、第七卷驚口瘡の條下に於る處置をしなければならぬ。

乳児が啼泣したからと云ふて直ちに「ゴム」製乳頭を啣ましめるのは、口内の不潔を來し易いから宜くない。萬一母乳を廢すべき必要の起つた場合に直ちに「ゴム」製乳頭に吸ひつき得る習慣を養はんとするならば、一日に一回を限り哺乳の前に極めて清潔な「ゴム」乳頭に吸ひつく様に練習させるがよい。



三、衣服和服は幸に授乳に最も適當のものである。

四、食物青菜を食すると小兒の便が青くなると云ふが、少量ならば差支ない。菜の緑色と便の緑色とは直接關係の無いものである。

〔附〕 乳汁分泌を多量にする法

乳汁分泌を多くする爲めに電氣、マッサージ、種々の藥品を用ふる事もあるが、其效は常に必ず確實とは云へない。

其分泌をよくするには十分飲み干すと云ふ事が肝要である。恰度堀井戸の水が掬めば掬む程よい水が多く湧き出ると同様である。

第八 離乳

滿一ケ年を経ても尙ほ哺乳させてゐるのは、母子共に有害である。然し滿一ケ年に於て突然離乳する譯にはゆかないから、八ヶ月頃から授乳の間に回數を定めて他の營養品を少量づゝ與へて、漸次に之に慣らして行くのがよろしい。

離乳した爲に乳房が緊張して痛みのある時は、冷褌法又は氷褌法をして提乳帶を施し、飲食物を制限し且便通を促すとよい。小兒は一日位は泣いて困るけれど、二日目位から全く忘れさせる事が出来る。

書 取

「よせん」「しつぺ」「ほんしゅつ」「しんたう」「ずゐはん」「しふくわん」「りにゆう」「きよぢやくじ」

類 字

豫選、撰文(選は良いのをえらぶ意)、撰は述べ作る意。哺乳、補足。葛湯、渴熱、喝采。

試験問題

- ◎ 母乳營養法ニ就イテ (東京、大正七、四) ◎ 同上 (宮城、大正十一、四)
- ◎ 同上 (東京、大正十三、四) ◎ 同上 (栃木、大正十二、十)
- ◎ 同上 (山口、大正十五、四) ◎ 同上 (山形、大正十五、四)
- ◎ 母乳營養法ニ關スル注意 (東京、大正十五、四) ◎ 初生兒授乳ニ就テ知ルトコロヲ記セ(茨城、大正十三、四)
- ◎ 同上 (大分、大正十五、十) ◎ 同上 (埼玉、大正十五、十)
- ◎ 初生兒ノ營養ニツイテ (兵庫、大正五、四) ◎ 婦孺ノ授乳ニ就テ知ル處ヲ記セ (福島、大正十五、十)
- ◎ 初生兒ノ營養(母乳)ニ就テ詳記セヨ(千葉、大正十三、四) ◎ 婦孺ノ授乳ニ就テ記セ (高知、昭和二、四)
- ◎ 初生兒ノ授乳ニツイテ (神奈川、大正六、四) ◎ 授乳ニツイテノ注意 (埼玉、大正七、四)
- ◎ 同上 (埼玉、大正七、四)



第三編 褥婦及初生兒の取扱法

- ◎初生兒ノ授乳及啼泣ニ就テ注意スベキ事項ヲ問フ (岩手、大正十五、四)
- ◎人工營養ト自然營養ト何レカ可ナルカ其ノ理由ヲ記セ (大阪、大正十四、十)
- ◎同上 (埼玉、大正十五、四)
- ◎初生兒ノ自然營養ト人工營養トノ利害得失ヲ論ゼヨ (神奈川、大正十三、十)
- ◎同上 (兵庫、昭和二、四)
- ◎人乳ト牛乳ノ區別及ヴィタミンニ就テ (新潟、大正十五、四)
- ◎同上 (三重、大正五、四)
- ◎母乳ハ何故宜シキカ
- ◎褥婦ノ初メテ生兒ニ授乳スベキ時期(東京、大正十一、四)
- ◎分娩後授乳ヲ開始スベキ時期 (和歌山、昭和二、四)
- ◎初乳ノ效用及分娩後初メテ哺乳セシムベキ時期 (愛知、大正五、十)
- ◎褥婦ノ乳汁ハ泌機能授乳ノ時期 (神奈川、大正十五、十)
- ◎初乳ハ授乳セシム可キモノナルカ否カテ理由ヲ擧ゲテ説明セヨ (大阪、大正十五、四)
- ◎分娩後二晝夜ヲ經タル褥婦乳汁分泌殊ニ少量ナリト云フ此際ニ如何ナル方法ヲ講ズベキヤ (千葉、大正七、十)
- ◎分娩後二日乃至三日間乳汁不充ナル時ノ褥婦並ニ初生兒ニ對スル處置ヲ記セ (岐阜、昭和二、五)
- ◎初生兒授乳ノ回数 (静岡、大正十五、十)
- ◎乳汁ノ主成分、母乳ヲ與フベカラザル場合 (新潟、大正十二、十)
- ◎初生兒ニ母乳ヲ與ヘ得ザル場合ヲ記セ (栃木、大正二、十)
- ◎母乳ヲ禁ズベキ場合 (千葉、大正六、四)
- ◎同上 (奈良、大正七、四)
- ◎同上 (群馬、大正七、十)
- ◎同上 (群馬、大正九、四)
- ◎同上 (東京、大正十三、四)
- ◎同上 (岐阜、大正十四、四)
- ◎同上 (群馬、大正十五、十)
- ◎同上 (山梨、大正十五、十)
- ◎授乳ヲ禁ズベキ母體疾病ノ名稱 (埼玉、大正六、十)
- ◎同上 (大阪、大正十四、十)
- ◎母乳ヲ禁ズベキ疾病ヲ擧ゲ其理由 (徳島、昭和二、四)
- ◎新生兒ニ於ケル絶對的授乳ヲ禁ズベキ褥婦ノ疾病ヲ列擧セヨ (茨城、大正十四、四)
- ◎母乳ヲ禁ズベキ場合ヲ擧ゲ併セテ牛乳及「コンデンスミルク」ノ稀釋法ヲ記セヨ (奈良、大正十五、四)
- ◎如何ナル場合ニ乳汁ノ變化ヲ來スヤ「静岡、大正十二、十)
- ◎母乳分泌量及其性質ニ影響ヲ及ボス主ナル事項 (山口、昭和二、四)
- ◎母乳ノ選擇 (東京、大正十三、十)
- ◎乳母ノ選定ニ際シ注意スベキ點(事項)ヲ記セ (岩手、大正十三、十)
- ◎同上 (栃木、大正九、四)
- ◎同上 (和歌山、大正十五、四)
- ◎同上 (奈良、昭和二、五)
- ◎乳母ノ選擇 (宮崎、大正十五、十)
- ◎授乳婦人ニ守ラシムベキ攝生法 (島根、昭和二、四)
- ◎乳兒離乳ニ就キ詳記セヨ (栃木、大正十五、四)
- ◎母乳分泌量及其性質ニ影響ヲ及ボス主ナル事項 (岐阜、昭和二、五)
- ◎離乳ノ時期 (千葉、大正六、四)
- ◎同上 (東京、大正十一、四)
- ◎離乳ノ時期及其ノ注意ヲ述ベヨ (大分、大正十五、四)
- ◎離乳ノ時期及ビ其必要ナル理由 (京都、大正七、四)
- ◎離乳ノ時期、離乳時ノ注意並其ノ必要ナル理由 (京都、大正十五、十)
- ◎離乳ノ時期及ビ其ノ方法 (大阪、昭和二、四)
- ◎離乳スベキ最低年齢 (埼玉、大正六、十)
- ◎同上 (三重、大正七、三)

第四章 初生兒取扱法

さし潮の朝日とともに眞玉なす  
麗しき子を挙げし君かな



月 日 ( 曜日 )

### 復習

- (一四) 哺乳開始の時期は？
- (一五) 哺乳回数は三ヶ月までは何回を適當とするか？
- (一六) 一回哺乳量の過不足は何うして知るか？
- (一七) 乳汁分泌を多量にする法は？

### 講義

(教科書第四卷五五—六二頁)

### 乙 人工營養法

#### 第一 牛乳稀釋法

次の表に見る様に、牛乳は人乳に比べて蛋白質と鹽類が多く糖分が少ない。而も其蛋白質は人乳の蛋白質より消化し難いから之を薄めなければならぬ。之を薄めたものでも小児に消化不良を起すのは

鹽類	糖分	脂肪	蛋白質	人乳	牛乳	山羊乳
〇、二%	六、〇%	三、五%	二、〇%	〇、七%	四、五%	三、八%
〇、七%	四、五%	三、五%	三、五%	〇、九%	三、八%	三、四%
〇、九%	三、八%	三、四%	二、八%			

牛乳脂肪の爲めである。

(山羊乳の蛋白質は牛乳程ではないが、糖分は殊に少ない)  
 第四表で一日の全量は一週を三〇〇—四〇〇と記憶すれば、其後は四五六と云ふ順であるから記憶し易い。

稀釋牛乳一回の量は最初は五十瓦、五十日で百瓦(五十の倍百)、二百日で二百瓦見當と記憶するとよい。或は一日全量を回數で割つて計算してもよい。  
 第五表は次の歌によつて記憶してもよい。

二ヶ月迄は二と一よ、四ヶ月まではしとしくして、半年までは半分で、七月なして乳ばかり。即ち二と二、四とし、半と半、七となを聯想して覺えるのである。或は二ヶ月毎に水を半減すると思つてもよい。

近頃は昔よりも濃厚の乳を與へる傾になつたので、佛蘭西の某學者は生後第二週から等分でよいと云ふて居る。甚だしいのは全く薄めないでよいと云ふ人もある。然し第一週は成るべく牛乳を用ひない



殊に第三―四日迄即ち母乳の白いのが出ない間は白い乳を絶對に用ひぬ様にした。煉乳の稀釋法は、製品によつて多少違ふが、大體は煉乳1を水6で稀めたものを生牛乳と見做して更に月數に應じて稀めればよい。

△砂糖の混加

白砂糖の代りに角砂糖を用ひてもよい。

滋養糖は最も良いが高價であるから、白砂糖等で具合の悪い時に通常用ふる事になつて居る。

△煉乳の製法も近來は進歩して、低い氣壓の鍋の中で低い温度で水分を蒸發させて煮つめるから、

サ井タミンも保存されてある。殊に製造後一年以内のものなら、寧ろ不良の生牛乳よりも優れてゐるのである。

第二 牛乳消毒法

牛乳は搾つてから飲むまでの間に種々の病原菌や腐敗菌が侵入するのみでなく、牛乳は細菌の最も好む營養物であるから、其中に於ては細菌が盛に繁殖し易いものである。それ故もし牛乳を消毒せずに其儘小兒に飲ませると、それから種々の病氣を惹き起すのである。

昔は消毒を完全にしたい爲めに三十分以上も煮沸したものであるが、かく長く煮沸すると牛乳中の蛋白質・脂肪・糖分に變化を起し、サ井タミン其他大事な有效成分を破壊するから、小兒の營養品としては不適當のものとなるのである。實際に於ても過度に熱した牛乳のみを久しく飲させると、小兒にバルロー氏病と云ふて、下肢等の骨の端が腫れて疼痛を起し、皮膚粘膜に出血を起す病氣を起す事がある。

それ故近來は牛乳の消毒は、低温又は成るべく短時間にするのがよいと云ふ風になつたが、低温又は短時間の消毒では細菌が全部死滅しないで残つた細菌が後に至つて殖える虞がある。其殖える事を防ぐには必ず冷所に置く事を忘れてはならない。

ソクスレット氏牛乳消毒釜中に入れる湯の量は牛乳の高さ丈けにするがよい。

哺乳罐の口に「ゴム」栓を載せて消毒釜の中で熱すると、罐中の牛乳及び空氣の容積が増加して、其空氣の一部分は其「ゴム」栓の間から逃げ出すのであるが、消毒後罐が冷却せらるゝと、罐内の牛乳及び空氣の容積が減少するから、罐内に陰壓を生じ、外氣の壓力で「ゴム」栓は凹んで、罐の口に固着して密栓し得るのである。即ちこの栓の取れない間は外部から細菌が更に侵入し得ないのである。之に反し此栓が緩んで居る場合は安全と云へないから小兒の哺乳に供してはならない。



此消毒釜は態々高價のものを求めなくても、飯ふかしを應用してもよい。只煮沸中罎が動いても倒れぬ様に針金等で固定して置かねばならぬ。

煮沸消毒が如何に完全であつても、器具の何れかに牛乳の古いのが残つて居ると、その變敗物質が小兒に害を及ぼす事がある。即ち此場合には熱の爲めに細菌は死滅してあつても、變敗した物質の爲めに化學的に害を及ぼすのである。長い「ゴム」管を有する哺乳器は、往々掃除が行届かない爲めに、以上の様な害を齎し易いから用ひぬがよい。

乳の出を少くする爲めに乳頭の内は何か物をつめて飲ませる事は無論よくない事である。若し乳が大きかつたら、新しいものを求め、清潔の裁縫針で小さく穿てばよい。信用ある牛乳商が一度消毒したもので、適當に配達されたものならば、二重の消毒を避け、只罎口を酒精のついた布でよく拭つて、沸騰後適當に冷めた湯と合せて其儘飲用させてもよい。

哺乳罎は使用後成るべく速やかに微温湯でよく洗つて、あとは多量の水で十分清めるがよい。熱湯で洗ふとカゼインが罎へこびり着いて容易に落ちなくなる。

▲良い牛乳の選び方

一、乾燥した飼草、藁等で適當に飼育した健康の乳牛から清潔に搾取したものでなければならぬ。

青草のみで飼育した牛の乳は往々下痢又は嘔吐を起させる事がある。

二、市場乳と云ふて多數の乳牛から搾取したのを混たのがよいと云ふ事である。

三、平等に白色で爪に滴下したものを動かして見ても容易に流出しないものがよい。一部分凝固して水分の分離せるものはよくない。

四、青色其他變つた色をしたものはよくない。異臭を有したり變味せるものは用ひてはならない。(低温で消毒した良い牛乳は、尙ほ幾分生乳固有の香氣を有して、特殊の美味の有るものである)。

丙 混合營養法

人乳に不足はなくとも脚氣等のために一時混合して用ふることもある。

混合營養法として重湯、葛湯、乳粉等の澱粉質を混用するものもあるが、それは八ヶ月以後ならば兎も角も、其以前ならば、醫師の許可を得て後に與へるがよろしい。

書 取

「じやうたら」「しよたら」「がこうさう」「ぢんあゐ」「せうどくびん」「れいぎうばこ」「ていをんせうどく」



- ◎人工營養トハ何ゾ及之ヲ行フベキ場合
  - ◎同上 (群馬、大正十一、四)
  - ◎同上 (東京、大正十四、四)
- ◎人工營養法ヲ行フベキ場合ヲ問フ
  - ◎同上 (岩手、昭和二、四)
  - ◎同上 (三重、大正十五、四)
- ◎初生兒營養物ノ注意
  - ◎同上 (千葉、大正六、四)
  - ◎同上 (愛知、大正七、十)
- ◎主要ナル初生兒營養品ノ種類及其使用法
  - ◎同上 (徳島、大正十五、十)
  - ◎同上 (東京、大正十三、十)
- ◎人工營養上注意スベキ要項ヲ記セ(北海道、大正十五、十)
  - ◎同上 (静岡、大正二、十)
  - ◎同上 (三重、昭和二、二)
- ◎牛乳、煉乳ヲ乳兒ニ與フル場合注意スベキ要項ヲ記セ
  - ◎同上 (埼玉、大正十二、十)
  - ◎同上 (山梨、大正十二、十)
  - ◎同上 (神奈、大正九、四)
  - ◎同上 (埼玉、大正九、四)
  - ◎同上 (山形、大正十三、四)
  - ◎同上 (大分、昭和二、五)
  - ◎同上 (東京、大正十一、四)
- ◎初生兒ノ人工營養ノ概要ヲ述ベヨ
  - ◎同上 (埼玉、大正十二、十)
  - ◎同上 (山梨、大正十二、十)
  - ◎同上 (神奈、大正九、四)
  - ◎同上 (埼玉、大正九、四)
  - ◎同上 (山形、大正十三、四)
  - ◎同上 (大分、昭和二、五)
  - ◎同上 (東京、大正十一、四)
- ◎初生兒ノ人工營養法ヲ記セ
  - ◎同上 (群馬、大正十一、四)
  - ◎同上 (東京、大正十四、四)
- ◎人工營養ニ就イテ
  - ◎同上 (群馬、大正十一、四)
  - ◎同上 (東京、大正十四、四)

大正八年一月一日	初版發行
大正八年七月五日	再版發行
大正九年八月一日	三版發行
大正十年四月一日	四版發行
大正十一年七月六日	五版發行
大正十二年七月廿七日	六版發行
昭和二年八月三日	七版發行

獨習書第四卷

正價金六拾錢  
送料金六錢

著者兼發行者 佐久間兼信

發行所 東京市神田區三崎町三丁目一三八番地 東京助産女學校

印刷者 遠藤一郎

印刷所 東京市神田區猿樂町二丁目八番地 東京助産女學校 專屬印刷所

特約賣捌 南山堂書肆

東京市本郷區龍岡町三十二番地  
電話小石川(八五)四七五七・振替東京六三三八







